

CA Identity Manager™

リリースノート

12.6.5



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報であり、CA の事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複写、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。

本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし、CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負いません。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者は CA および CA Inc. です。

「制限された権利」のもとでの提供：アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2015 CA. All rights reserved. 本書に記載されたすべての商標、商号、サービス・マークおよびロゴは、それぞれの各社に帰属します。

CA Technologies 製品リファレンス

このマニュアルが参照している CA Technologies の製品は以下のとおりです。

- CA CloudMinder™ Identity Management
- CA ディレクトリ
- CA Identity Manager™
- CA Identity Governance (旧 CA GovernanceMinder)
- CA SiteMinder®
- CA User Activity Reporting
- CA AuthMinder™

CA への連絡先

テクニカルサポートの詳細については、弊社テクニカルサポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

目次

第 1 章: 新機能	11
12.6.4.....	11
既存機能の変更点.....	11
新しい認証.....	12
追加オブジェクト/属性をサポートするために機能拡張された Top Secret V2 Connector.....	13
モバイルアプリケーションのパスワード変更の拡張機能.....	13
一括ロードクライアントの拡張機能.....	13
Android OS に対するモバイルアプリケーションのサポート.....	13
Connector Xpress による SCIM および Web Services Connector のカスタマイズのサポート.....	14
Policy Xpress による SOAP および REST Web サービスのサポート.....	14
[マイ ワーク リストの表示] タスクの検索画面.....	14
12.6.3.....	14
新しい認証.....	15
JBoss 6.1 EAP でのユニキャストのサポート.....	16
新しいイベントによる電子メールおよび監査データの生成.....	16
Lotus Notes Domino の ID ボールトのサポート.....	17
HTTP ヘッダ情報のキャプチャ.....	17
サービス オブジェクト拡張機能.....	18
12.6.2.....	18
新しい認証.....	19
モバイルアプリケーションのサポート.....	20
アカウントのアカウントテンプレート値の同期化/削除.....	21
LND コネクタに関する拡張設定.....	21
タスク永続性データベース スキーマ.....	22
SAP アカウント パスワードの非アクティブ化のサポート.....	22
エージェントレスとエージェントの 2 つのモードによる Exchange への接続.....	22
Exchange データ アクセス グループ (DAG) のサポート.....	23
Exchange 2010 の自動メールボックス配布のサポート.....	23
データベースがオフラインの場合の SQL Server への接続.....	23
レポートのスナップショット定義を作成するタスク.....	24
12.6.1.....	24
新しい認証.....	25
SSL 対応の JNDI ユーザストア.....	25
管理コンソール ブートストラップ ディレクトリにおける暗号化されたパスワードのサポート.....	26

12.6.....	26
新しい名前および外観.....	27
簡略化されたユーザ操作性.....	27
プロビジョニングの拡張機能.....	27
コネクタ拡張機能.....	28
パフォーマンス強化.....	30
Policy Xpress の拡張機能.....	32
安全な管理コンソール.....	33
基本的なアクセス要求.....	33
Config Xpress の新しいドキュメント.....	35
SiteMinder Advanced Password Services のネイティブ CA Identity Manager 置換.....	36
データを暗号化するためのダイナミック キー.....	37
Active Directory Server の同期.....	37
ログインイベントおよびログアウトイベントの監査.....	38
SHA-2 のサポート.....	38

第 2 章: インストールに関する考慮事項 39

Web Services SOAP および REST に対する Policy Xpress サポートの有効化.....	40
サポートされるプラットフォームおよびバージョン.....	40
非推奨コンポーネントと削除コンポーネント.....	40
追加の CA 製品による UNIX リモート エージェントの同時インストール.....	41
パスワードが暗号化されない.....	41
ユーザストアとオブジェクトストアとしての Oracle 11g R2 RAC.....	42
ユーザストアおよびオブジェクトストアとしての Oracle 12c RDB.....	42
ユーザストアとしての AD LDS.....	42
英語以外のシステムで ASCII 以外の文字を使用するとインストールに失敗する.....	42
Windows 2008 SP2 でファイアウォールを回避する方法.....	43
管理者のアクション用 JSP ページの展開.....	43
Linux : プロビジョニングディレクトリのインストール.....	44
Linux インストール用の JDK 要件.....	44
Linux 64 ビット : SiteMinder 接続エラー.....	45
WebSphere と AIX 上におけるパフォーマンス改善.....	46
WebSphere 7/Oracle エラーの無視.....	46

第 3 章: アップグレードに関する考慮事項 47

12.6 からのアップグレード後にシステム マネージャ ロールに必要な管理ロール スコープ.....	48
サポートされているアップグレードパス.....	48
タスク永続性およびアーカイブスキーマを更新する新しいスクリプト.....	49

SAP R3 用の新しい JCO ファイル	49
新しい Active Directory ロール定義ファイル	49
jboss.xml ファイルへの更新	50
64 ビット アプリケーション サーバ	50
一部のクラスタ上で r12 (CR6 以降) のアップグレードが失敗する	51
r12.5 SP7 より古いシステムからのアップグレード後のワークフロー エラー	52
環境移行エラー	53
Credential Provider のアップグレード エラー	53
Credential Provider の内部エラー	53
[検索および関連付け] タスクで検索画面が表示されない	54
r12 からのプロビジョニング マネージャのアップグレード後の致命的ではないエラー	54
アップグレード前に、ACF2、RACF、および TSS のエンドポイントの名前変更	55
SQL アップグレード スクリプトの実行	55

第 4 章: 修正された問題 57

12.6.4.....	57
12.6.3.....	60
12.6.2.....	63
12.6.1.....	65

第 5 章: マニュアル 69

マニュアル選択メニュー	69
既知の問題	70
CA Identity Manager と CA Identity Governance の統合リリース ノート	70

付録 A: アクセシビリティ機能 71

第 508 条準拠	71
製品の拡張機能	71

第 6 章: 既知の問題 79

一般	79
HTML ビューとテキスト ビューの切り替えで生じるフォーマットの問題	79
ある環境から別の環境へオブジェクトを移行する際に、Configuration Xpress に制限事項があります。	80
デフォルトの [質問と回答の設定] 設定で [パスワードのリセット動作] としての [QnA] が失敗する	81
IdentityMinder を r12.6 SP2、SP3 から SP4 へアップグレード後にパスワードのリセットに失敗する	82

多数のサービスをエクスポートする場合のエラー	83
クリアテキストで格納されるパスワード	84
ApproversList の多すぎる承認者	85
Windows 2012 および Windows 8 のプラットフォームの Credential Provider から [パスワードを 忘れた場合] および [アカウントのロック解除] ページに接続できない	85
pws.fcc がいないためにパスワードのリセット確認後に 404 エラーが表示される	85
サービス オブジェクト用のカスタム電子メールテンプレートの追加	86
インストールパスまたはデータベースの詳細を UTF-8 文字により英語以外の言語で指定して CA Identity Manager をインストールするとエラーになる	87
CA IdentityMinder サーバのアップグレード後の接続エラー	88
OOTB スナップショット DDL スクリプトの実行時に警告メッセージが表示される	89
モバイルアプリケーション用の非状況依存ヘルプ	90
管理コンソールからのプロビジョニングディレクトリの作成が失敗する	90
ユーザパスワード用の AttributeLevelEncryption	91
TEWS 使用時における LDAP DN の指定	92
64 ビット Linux システムで setpasswd が失敗する	93
結合されたユーザストアおよびプロビジョニングディレクトリを使用する場合のパスワー ドポリシー問題	94
64 ビット Active Directory パスワード同期エージェントの設定時に CA IdentityMinder サーバに 接続できない	95
EnableUserEventRoles のワークフロー参加者リゾルバが失敗する	96
[サブミット済みタスクの表示] 内の重複した名前	96
新規環境作成時の Not Found エラー	96
CA Identity Manager での単一値コンパウンド属性の変更	97
関係属性レベルにおける Bulk Loader の制限	98
トークン化されたテンプレートを使用してプロビジョニング対応環境を作成する際のエラー	98
Oracle Applications の前提条件	98
Oracle 11gR2 RAC ユーザストア： 検索で大文字と小文字が区別される	99
JBoss 上の CA Identity Manager では Oracle に再接続されない	100
Mozilla Firefox でメインコンテンツへのスキップが失敗する	100
ユーザの同時変更が失敗する	101
Policy Xpress 構文の変更	101
SAP ヘルプ トピックの更新	102
Oracle バグ 6376915 の修正の有効化	103
RequestUserToService タスクの実行に失敗する	104
レポート	105
Audit-Assign Revoke Provisioning Roles レポート	105
ユーザアカウントとエンドポイントアカウントのカスタム スナップショット XML ファイル ではユーザフィルタ検索で大文字と小文字が区別される	106
Satisfy=All が XML ファイルで正しく機能しない	106

エンドポイント オブジェクトで複数のフィルタを使用する際における問題.....	106
スナップショットではグループ オブジェクト データがキャプチャされない.....	107
一般的なプロビジョニング	107
プロビジョニング ロールの名前を変更することはサポートされない	107
INFO レベルよりも上位のレベルで Solaris ECS のロギングを行うとプロビジョニング サーバの パフォーマンスに影響する可能性がある	107
エンドポイント追加時に既存エンドポイントが存在するエラー	108
Microsoft SQL エンドポイントの相関が失敗する	108
グローバルユーザ名に対する SiteMinder のログイン名の制限.....	109
CA IAM CS および Connector Xpress.....	109
JNDI アカウント管理画面 - 複数の構造オブジェクト クラスでのアカウント作成に失敗する.....	109
エンドポイント タイプ	109
全般	109
CA Access Control	114
CA Arcot	116
拡張ポリシー サーバ用 CA SSO コネクタ	116
DB2 および DB2 for z/OS	117
Google Apps	117
Microsoft Active Directory および Exchange	120
PeopleSoft	120
SAP	121
Siebel.....	122
UNIX v2.....	123

第 1 章：新機能

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[12.6.4](#) (P. 11)

[12.6.3](#) (P. 14)

[12.6.2](#) (P. 18)

[12.6.1](#) (P. 24)

[12.6](#) (P. 26)

12.6.4

既存機能の変更点

CA Identity Manager による CABI の新規バージョンのサポート

このリリースから、CA Identity Manager は CA Business Intelligence (CABI) バージョン 3.3 SP1 のみをサポートするようになりました。CA Identity Manager インストールキットには、CABI 3.3 インストーラおよび CABI 3.3 SP1 インストーラが含まれています。CABI 3.3 をインストールし、次に CABI 3.3 SP1 をインストールする必要があります。

新しい認証

以下の新しいプラットフォームが CA Identity Manager r12.6.4 で認証されます。

エンドポイント

- エンドポイントとしての CA ControlMinder r12.8
- エンドポイントとしての Microsoft Windows 2012 R2 Active Directory
- エンドポイントとしての Oracle 12c Database
- エンドポイントとしての Microsoft Lync Server 2010 および 2013
- エンドポイントとしての PeopleSoft Financials 9.2
- エンドポイントとしての System for Cross-domain Identity Management (SCIM)
- エンドポイントとしての Lotus Notes Domino 9.x

Web Services(Layer7)エンドポイント

- Service Now
- Microsoft Azure
- Zendesk

Application Server

- JBoss 6.2.0 EAP

CA Identity Manager ユーザ ストア

- Oracle 12c
- Microsoft Windows 2012 R2 Active Directory

CA Identity Manager オブジェクト ストア

- Oracle 12c

クレデンシャル プロバイダ

- Microsoft Windows 8
- Microsoft Windows 8.1

追加サポート

- Windows Active Directory 2012 R2 でのパスワード同期エージェントのサポート
- CA SiteMinder r12.52 CR1、r12.52 SP1 および r12.51 CR3 との統合
- IE 11.x に対するブラウザ サポート
- Firefox 29.x に対するブラウザ サポート

追加オブジェクト/属性をサポートするために機能拡張された Top Secret V2 Connector

Top Secret V2 Connector の機能が拡張され、メインフレーム内のリソース、機能、セグメントおよびその他のすべての属性が表示されるようになりました。

モバイル アプリケーションのパスワード変更の拡張機能

PIN および Q&A フローの両方に関係するパスワードをリセットする際に、モバイルアプリケーションにセキュリティのレベルが追加されました。詳細については、「[管理ガイド](#)」を参照してください。

一括ロード クライアントの拡張機能

一括ロード クライアントの機能が拡張され、一括タスク ユーザ インターフェースにあるものと同様の、ケトル トランスフォームがデータ ソース およびセカンダリ アクションとしてサポートされるようになりました。

Android OS に対するモバイル アプリケーションのサポート

モバイルアプリケーションは、Android オペレーティング システムを使用するモバイル デバイスをサポートするようになりました。

Connector Xpress による SCIM および Web Services Connector のカスタマイズのサポート

Connector Xpress の機能が拡張され、以下の SCM および Web Services Connector メタデータのカスタマイズをサポートするようになりました。

- Service Now
- Azure
- Zendesk

Policy XPress による SOAP および REST Web サービスのサポート

Policy XPress の機能が拡張され、Policy XPress を Web サービス インターフェースを提供する外部アプリケーションと統合できるように、Web Services SOAP（基本認証メソッド）、および REST（基本認証、プロキシ認証、および OAuth 認証メソッド）をサポートするようになりました。

[マイ ワーク リストの表示]タスクの検索画面

新しい検索画面が [マイ ワーク リストの表示] タスクに追加され、ワークフロー サブジェクトのユーザ ID、または作業アイテムのフィルタリングを行うタスクのイニシエータによって検索できるようになりました。

12.6.3

[新しい認証 \(P. 15\)](#)

[JBoss 6.1 EAP でのユニキャストのサポート \(P. 16\)](#)

[新しいイベントによる電子メールおよび監査データの生成 \(P. 16\)](#)

[Lotus Notes Domino の ID ボールトのサポート \(P. 17\)](#)

[HTTP ヘッダ情報のキャプチャ \(P. 17\)](#)

[サービス オブジェクト拡張機能 \(P. 18\)](#)

新しい認証

以下の新しいプラットフォームが CA Identity Manager r12.6.3 で認証されます。

エンドポイント

- エンドポイントとしての Microsoft AD Exchange Server 2013
- エンドポイントとしての Salesforce v24
- エンドポイントとしての Solaris 11.1
- エンドポイントとしての SUSE 11 SP3
- Connector Xpress JNDI エンドポイントとしての CA Directory r12.0 SP12 GA
- エンドポイントとしての CA ACF2 LDAP r15.1
- エンドポイントとしての CA RACF LDAP r15.1
- エンドポイントとしての CA TSS LDAP r15.1

サーバ・オペレーティング・システム

- Windows 2012 Essentials

サーバクライアントオペレーティングシステム

- Windows 2012 Essentials
- Windows 8

アプリケーション サーバ

- JBoss 6.1.1 EAP

CA Identity Manager ユーザストア

- CA Directory r12.0 SP12 GA
- Microsoft Active Directory 2012 Essentials
- Microsoft ADAM 2012 Essentials

追加サポート

- Active Directory 2012 Essentials 上のパスワード同期エージェントのサポート
- Internet Explorer 10.x

- Google Chrome 28.x
- CA SiteMinder r12.5 CR3、r12.51 CR1 との統合
- RHEL、SUSE、Solaris、AIX、および HPUX での UNIX エージェントレスのサポート
- JBoss 6.1.0 EAP によるユニキャストおよびマルチキャストのサポート
- このリリースのリモートエージェントによる CAM 1.14 のサポート
- このリリースによる AXIS2 1.6.2 のサポート

JBoss 6.1 EAP でのユニキャストのサポート

CA Identity Manager を JBoss 6.1 EAP にインストールする場合、ユニキャストは、マルチキャストの代替メッセージ機能プロトコルとなります。組織で最適な選択を行うために、両方のプロトコルをテストすることをお勧めします。

いずれかのプロトコルを使用する場合の詳細については、JBoss バージョンの「アップグレードガイド」を参照してください。

新しいイベントによる電子メールおよび監査データの生成

以下の 2 つの新しいイベントに関して電子メール通知および監査データを有効にできます。

- **ForgottenPasswordAuditEventQnAInitiated**
ユーザがパスワードリセットの試行中に Q&A のページを参照すると、忘れたパスワードパブリックタスクによってこのイベントが生成されます。
- **ForgottenPasswordAuditEventQnALocked**
セキュリティ上の質問に正しく答えられなかったために Q&A のページがロックされると、忘れたパスワードパブリックタスクによってこのイベントが生成されます。

管理コンソールからの電子メール通知および監査を設定します。

注: 電子メール通知の設定方法については、「[管理ガイド](#)」を参照してください。監査の設定方法については、「[設定ガイド](#)」を参照してください。

Lotus Notes Domino の ID ボールトのサポート

Lotus Notes Domino の ID ボールト機能が、このリリースからサポートされるようになりました。この機能により、パスワードの回復/リセット、失った ID の回復、ユーザ名の変更などをネイティブで安全に実行できます。

HTTP ヘッダ情報のキャプチャ

新しいサーブレット フィルタ：このリリースで、**ClientExtractFilter** が追加されました。このサーブレット フィルタにより、**Web** クライアント環境に関するすべての情報が集中的に抽出されます。このフィルタは、**HTTP** ヘッダから情報を抽出します。現時点では、クライアント IP アドレスのみが抽出されています。ただし、この情報は、1 回のリクエストに対して 1 回だけ抽出されます。

このサーブレット フィルタは、**web.xml** で「**:/***」という URL パターンによって示される各リクエストに対して実行されます。

フィルタで抽出された **Web** クライアント情報のプレースホルダとして機能する **WebClientInformation** ユーティリティ クラスが追加されました。このクラスは、現時点では IP アドレスのみを保持しますが、今後拡張される可能性があります。

その後、この **WebClientInformation** は、「**WebClientInfo**」というキーによって識別される属性として **TaskSession** に組み込まれます。したがって、このリクエストによって生成される場合、リクエストの結果として作成される任意のイベント、タスク、UI、またはワークフローがクライアント情報を持ちます。

サービス オブジェクト拡張機能

削除前にサービスを無効にする必要があるかどうかを指定する新しい [サービスをユーザから取り消し] チェック ボックス オプションが、 [ユーザの削除] タスクに追加されました。

[アクセスをリクエストおよび表示] タスク フィルタのサポートが追加され、管理および所有者検索オプション用の検索セクションを利用できるようになりました。

サービス リクエスト期間、ユーザ データなどのサービス リクエスト固有の情報を、サービス リクエスト承認ワークフロー アイテムに表示できるようになりました。この情報は、「AddServiceToUserEvent」イベントで設定されたグローバル ポリシー ベースのワークフローがある場合に、電子メール通知でも送信されます。

12.6.2

[新しい認証](#) (P. 19)

[モバイルアプリケーションのサポート](#) (P. 20)

[アカウントのアカウント テンプレート 値の同期化/削除](#) (P. 21)

[LND コネクタに関する拡張設定](#) (P. 21)

[タスク 永続性 データベース スキーマ](#) (P. 22)

[SAP アカウント パスワードの非アクティブ化のサポート](#) (P. 22)

[エージェントレスとエージェントの 2 つのモードによる Exchange への接続](#) (P. 22)

[Exchange データ アクセス グループ \(DAG\) のサポート](#) (P. 23)

[Exchange 2010 の自動メールボックス配布のサポート](#) (P. 23)

[データベースがオフラインの場合の SQL Server への接続](#) (P. 23)

[レポートのスナップショット定義を作成するタスク](#) (P. 24)

新しい認証

以下の新しいプラットフォームが CA Identity Manager r12.6.2 で認証されます。

エンドポイント

- エンドポイントとしての CA ControlMinder r12.6 SP2
- エンドポイントとしての CA ControlMinder r12.7 SP2
- NT エンドポイントとしての Windows Server 2012
- JNDI エンドポイントとしての Windows Server 2012 (ADAM)
- JNDI エンドポイントとしての CA Directory r12.0 SP11
- エンドポイントとしての Windows Server 2012 Active Directory
- エンドポイントとしての Java メインフレーム コネクタ
- エンドポイントとしての Microsoft AD Exchange Server 2010 SP3
- エンドポイントとしての Microsoft Office 365
- エンドポイントとしての SAPJCO V.3

アプリケーション サーバ

- JBoss 6.1 EAP
- WebSphere Application Server (WAS) 8.0
- WebSphere Application Server (WAS) 8.5

CA Identity Manager ユーザ ストア

- CA Directory r12.0 SP11 GA

CA Identity Manager ユーザ ストアとオブジェクト ストア

- Microsoft SQL Server 2008 R2 SP2
- Microsoft SQL Server 2012 SP1 SP2

注: JBoss は、Microsoft SQL Server 2012 のサポートを発表していません。

追加サポート

- Java JDK 1.7.x
- Microsoft SQL Server 2012 SP1 のユーザ定義ロールおよびユーザ定義サーバロール

- Mozilla Firefox 18.x
- Business Objects Report Server XI 3.1 SP6 (CABI 3.3 SP1)
- CA SiteMinder r12.5 CR1、r12.5 CR2、r12.5.1、r12.0 SP3 CR12、および r6 SP6 CR10 との統合
- CA Identity Governance r12.5 SP8 および CA Identity Governance r12.6 SP1 がある CA Identity Manager との統合
- モバイルアプリケーションのサポート
- WorkPoint Designer バージョン 3.4.2.20080602-33 のサポート
- Microsoft ADS/Exchange のエージェントレス モード、DAG、および自動メールボックス配布のサポート
- CA AuthMinder v7.1 のサポート

モバイル アプリケーションのサポート

CA Identity Manager モバイル アプリケーションでは、既存の CA Identity Manager インフラストラクチャを活用して iPhone や iPad などのモバイルデバイスで以下のタスクを行うことができます。

- 忘れたパスワードのリセット

注: モバイルユーザが自分のデバイスから忘れたパスワードをリセットできるようにした場合、CA Identity Manager は、セキュリティの質問の代わりにデバイスのセキュリティに依存します。パスワードのリセット機能を有効化する前に、パスワードなどのデバイスセキュリティを追加することを検討してください。

- パスワードの変更
- 承認リクエストへの応答
- 管理者詳細の表示

この機能では、ワークフロー リクエストを承認するユーザが、ユーザの管理者に関する情報を表示することを許可します。

注: CA Identity Manager 12.6.5 は、モバイルアプリケーションのバージョン 1.0 をサポートしていません。Apple ストアから最新バージョンをダウンロードしてください。

モバイルアプリケーションの詳細については、「[管理ガイド](#)」を参照してください。

アカウントのアカウント テンプレート値の同期化/削除

Oracle Applications アカウント テンプレートの職責リスト属性に関して「アカウントのアカウント テンプレート値の同期化/削除」機能を使用できるようになりました。これにより、Oracle Applications アカウントの職責 エントリを失効させることができます。

さらに、このリリースには、「非同期」エラーを防ぐために職責計算機能が強化されています。

この機能の詳細については、「*Connectors Guide*」の「Responsibilities List and Account Synchronization」を参照してください。

LND コネクタに関する拡張設定

検索および関連付け操作中の LND コネクタのパフォーマンスを向上させるために、以下の設定可能な設定を使用できるようになりました。

- readExpirationDateInSearch
- readOuFromPrimaryAddressBookOnly
- readAcctFromPrimaryAddressBookOnly
- enableUouDetection

注: 以下のファイルにある上記の属性の値を変更できます。

```
CA\Identity Manager\Connector Server\conf\override\lnd\connector.xml
```

タスク永続性データベース スキーマ

このリリースでは、タスク永続性データベース スキーマを更新する SQL スクリプトが改善されています。このスクリプトは、適切な列サイズを設定し、ランタイム ステータス詳細表示ストア プロシージャを挿入します。

この更新では、`runtimeStatusDetail12` テーブルと、新しいシステムまたはアップグレードされたシステムに関する、対応する `archive_runtimeStatusDetail12` テーブルの間でのサイズの不一致がありません。この更新により、「サブミット済みタスクのクリーンアップ」タスクによる失敗がなくなります。

SAP アカウント パスワードの非アクティブ化のサポート

このリリースでは、[アカウント] タブで [パスワード非アクティブ] 属性を使用できるようになりました。この属性を使用すると、パスワードが非アクティブ化された SAP アカウントを作成できます。また、既存の SAP アカウントのパスワードも非アクティブ化できます。非アクティブ化するには、パスワードをリセットします。

エージェントレスとエージェントの 2 つのモードによる Exchange への接続

このリリースでは、エージェントを使用せずに、Exchange 2007 および Exchange 2010 エンドポイントに接続できます。これらのエンドポイントへの新しい接続には、エージェントレス モードを使用することをお勧めします。

ただし、Exchange 2003 については、エージェントレス モードを使用できないため、リモート エージェントを使用して接続する必要があります。

以下の表に、エージェント モードとエージェントレス モードに関して、Exchange のサポートされるバージョンを示します。

エンドポイントのバージョン	エージェント	エージェントレス
Exchange 2003	はい	いいえ

エンドポイントのバージョン	エージェント	エージェントレス
Exchange 2007	はい	はい
Exchange 2003 と Exchange 2007	はい	いいえ
Exchange 2010	はい	はい
Exchange 2007 と Exchange 2010	はい	はい

Exchange データ アクセス グループ (DAG) のサポート

このリリースでは、Exchange 2010 でデータ アクセス グループ (DAG) を使用して高可用性を確保することができます。DAG に接続することで、フェールオーバー時にエンドポイントへの接続が確実に保持されます。

Exchange 2010 の自動メールボックス配布のサポート

このリリースでは、Active Directory (AD) Exchange コネクタが、Exchange 2010 の自動メールボックス配布を処理できます。

メールボックスを作成または移動したり、既存ユーザのメールを有効にしたりする場合は、メールボックスがメールボックス データベースに格納されている必要があります。以前の Exchange Server では、上記のいずれかの操作を実行するためにメールボックス データベースを指定する必要がありました。Exchange Server 2010 では、自動メールボックス配布を使用することにより、Exchange によってデータベースが選択されます。

データベースがオフラインの場合の SQL Server への接続

データベースがオフラインの場合に SQL Server エンドポイントの検索および関連付けを実行できるようになりました。

レポートのスナップショット定義を作成するタスク

レポートを作成するために必要なデータのスナップショットを作成する場合、今後は、「スナップショット定義の作成」タスクを使用することをお勧めします。デフォルトのスナップショット XML パラメータ ファイルは、段階的に廃止されます。詳細については、「[管理ガイド](#)」を参照してください。

12.6.1

[新しい認証](#) (P. 25)

[SSL 対応の JNDI ユーザストア](#) (P. 25)

[管理コンソールブートストラップディレクトリにおける暗号化されたパスワードのサポート](#) (P. 26)

新しい認証

以下の新しいプラットフォームが CA Identity Manager r12.6.1 で認証されます。

エンドポイント

- 静的および動的エンドポイントとしての Microsoft SQL 2012
- JNDI エンドポイントとしての CA Directory r12 SP10 CR2
- CA Embedded Entitlements Manager (EEM) - プロビジョニング マネージャによりサポート

CA Identity Manager ユーザ ストア

- CA Directory r12 SP10 CR2

CA Identity Manager ユーザ ストアと実行時ストア

- Microsoft SQL Server 2012 SP1 SP2

追加サポート

- Mozilla Firefox 14.x
- Business Objects Report Server XI 3.1 SP5 (CA Business Intelligence 3.3)
このバージョンは、CA SiteMinder がサポートしているバージョンと一致します。
- 高可用性設定のレポート サーバのサポート
- CA Identity Governance r12.6 がある CA Identity Manager のサポート
- CA SiteMinder r12.0 SP3 CR11 と統合された CA Identity Manager のサポート

SSL 対応の JNDI ユーザ ストア

現在、ピア証明書の確認が必須です。この機能を使用するには、CA Identity Manager JRE のデフォルトの信頼済みキーストアにユーザ ストア SSL サーバ証明書を追加する必要があります。キーストアは以下の場所にある cacerts または jssecacerts ファイルです。

`JAVA_HOME\jre\lib\`

JDK のユーティリティ キーツールを使用して証明書を追加してください。

管理コンソール ブートストラップ ディレクトリにおける暗号化されたパスワードのサポート

AuthenticationDirectory と呼ばれるブートストラップ ディレクトリを使用して管理コンソールをセキュリティ保護する場合、管理コンソール管理者用のパスワードを暗号化できるようになりました。

12.6

[新しい名前および外観](#) (P. 27)

[簡略化されたユーザ操作性](#) (P. 27)

[プロビジョニングの拡張機能](#) (P. 27)

[コネクタの拡張機能](#) (P. 28)

[パフォーマンスの向上](#) (P. 30)

[Policy Xpress の拡張機能](#) (P. 32)

[安全な管理コンソール](#) (P. 33)

[基本的なアクセス要求](#) (P. 33)

[Config Xpress の新しいドキュメント](#) (P. 35)

[SiteMinder 用ネイティブ CA Identity Manager 置換詳細パスワードサービス](#) (P. 36)

[データを暗号化するためのダイナミック キー](#) (P. 37)

[Active Directory サーバの同期](#) (P. 37)

[ユーザのログインおよびログアウト イベントの監査](#) (P. 38)

[SHA-2 サポート](#) (P. 38)

新しい名前および外観

デフォルトのユーザ コンソールが更新され、CA の新しいスタイルおよびカラーが反映されるようになりました。

Java コネクタ サーバ (Java CS または JCS) の名前は、CA IAM コネクタ サーバ (CA IAM CS) に変更されました。

簡略化されたユーザ操作性

このリリースには以下のユーザ操作性が改善されています。

- 更新されたセルフ サービス タスク画面
以下の画面が、操作性を改善するために更新されています。
 - ログイン画面のポータルルック アンド フィール
 - 自己登録/ID の作成
 - マイ パスワードの変更
 - 忘れたパスワードのリセット
 - 忘れたユーザ ID
- 特定の管理タスクは Web 2.0 コントロールを使用します。

プロビジョニングの拡張機能

CA Identity Manager12.6 には、プロビジョニングを改善するための以下の新機能および変更が含まれます。

Linux におけるプロビジョニング サーバ

プロビジョニング サーバは現在、Solaris の代替として Red Hat Linux にインストールできます。

ユーザコンソールのプロビジョニング マネージャ機能

ユーザコンソールでは、以下のプロビジョニング マネージャ機能がサポートされるようになりました。

- ユーザ、ロール、エンドポイントアカウント、およびアカウントテンプレートの同期

CA Identity Manager のエンドポイントとアカウントとを統合すると、同期が失われる場合があります。たとえば、ユーザに割り当てられたプロビジョニング ロールは、そのユーザが所有する実際のアカウントと異なることがあります。同期化タスクにより、この問題は修正されます。

- 関連ルールは、エンドポイントアカウント属性をユーザコンソール内のユーザ属性にマッピングする処理を制御します。たとえば、Access Control には AccountName と呼ばれる属性があります。これをユーザコンソール内の FullName にマップするルールを作成することができます。

コネクタ拡張機能

CA Identity Manager12.6 には、新しいコネクタの構築と展開を容易に行うための以下の新機能および変更が含まれます。

ホット デプロイ - CA IAM CS を再起動せずに新しいコネクタをインストールする

CA IAM コネクタ サーバ (CA IAM CS) は、Java コネクタ サーバ (または Java CS または JCS) の新しい名前です。

CA IAM CS では現在、ホット デプロイをサポートしています。ホット デプロイとは、CA IAM CS を再起動せずに、コンポーネントの追加、削除、または更新を行うプロセスです。以下のタスクを実行できます。

- CA IAM CS を再起動せずに、コネクタをインストール、アンインストール、またはアップグレード

CA IAM CS を再起動したり、そのホストにログインせずに、新しいコネクタや更新されたコネクタを展開してインストールできます。最新コネクタのバージョンについては、[CA サポート](#)にお問い合わせください。

- CA IAM CS を再起動せずに、サードパーティ ライブラリを展開

いくつかのコネクタでは、CA IAM CS で同梱できないライブラリを必要とします。以前は、これらのライブラリを展開してから CA IAM CS を再起動する必要がありました。今では、コネクタ サーバの実行中にこれらのライブラリを展開できます。

CA IAM CS には、サードパーティ ライブラリの中核的なセットが含まれ、コネクタはこれらの任意のライブラリを使用できます。またコネクタには、必要とする他の任意のサードパーティ ライブラリを含めることができます。

注: ホット デプロイは C++ コネクタでは動作しません。

バンドルビルダ - コネクタを作成するための新しいツール

CA IAM CS では、コネクタが OSGi (Open Services Gateway initiative) バンドルとして提供されることを必要とします。OSGi フレームワークは、完全に動的なコンポーネントモデルを実装する Java プログラミング言語のモジュールシステムおよびサービスプラットフォームです。コネクタ サーバの SDK にはバンドルビルダ ツールが含まれます。それは、コネクタをバンドルでラップするのを支援します。

コネクタおよび CA IAM CS のログ記録

CA IAM CS にログインして、CA IAM CS およびそのコネクタの最近のログメッセージを参照することができるようになりました。ログファイルを使用してすべてのログメッセージを参照することも、引き続き可能です。

コネクタおよび CA IAM CS の証明書

CA IAM CS およびそのコネクタの証明書を表示し管理するために、CA IAM CS にログインできます。

カスタム属性およびカスタム機能属性をマップするために Connector Xpress を使用する

カスタム属性およびカスタム機能属性をマップするために Connector Xpress を使用します。属性をマップするために XML ファイルの `<jcs-home>/conf/override/lnd/lnd_custom_metatdata.xml` を使用することは、できなくなりました。

CA IAM CS は CCS 用プロキシ

CA Identity Manager は現在、C++ コネクタ サーバ (CCS) 用のプロキシとして CA IAM CS を使用します。CA Identity Manager は、CCS と直接通信しなくなりました。

パフォーマンス強化

CA Identity Manager 12.6 では製品の以下の領域でパフォーマンスが向上しています。

Bulk Loader のパフォーマンスに関する改善

このリリースで、Bulk Loader のパフォーマンスは改善されています。その改善には以下の変更が含まれます。

- 親 Bulk Loader (フィーダ) タスクによるタスクの高いサブミット率：より多くのタスクが並列で実行します。
- データベース接続再利用における最適化：管理対象オブジェクト属性定義がキャッシュされることで、各タスクの実行が最初から最後まで高速化されました。
- いくつかのプラグインとリスナが改善され、タスク実行中に生成されるイベントの処理が高速化されました。

パフォーマンスをさらに改善するには、バルク ロード操作の間に以下の変更を行うことをお勧めします。

- 不要な Policy Xpress ポリシー、ビジネス ロジック タスク ハンドラ、および同期フラグをタスク レベルで無効にします。
- 管理ロールと管理タスクの数をスコープで最小限に抑えて専任ユーザとして Bulk Loader (フィーダ) タスクを実行します。

注: 追加のパフォーマンス向上の詳細については、「管理ガイド」で Bulk Loader についてのセクションを参照してください。

改善されたスナップショット エクスポート パフォーマンス

このリリースでは、レポート用にスナップショットデータをエクスポートするプロセスは、パフォーマンスと操作性を改善するために再構成されました。スナップショット定義ウィザードを使用して、ユーザ、エンドポイント、管理ロール、プロビジョニングロール、グループ、および組織をロードするルールを定義したりカスタマイズできます。

この機能を使用すると、ユーザ コンソール タスクを使用して、特定のスナップショットインスタンス用に適切な属性のみを選択しエクスポートできます。以前のリリースでは、ユーザは XML ファイルを手動で編集する必要がありました。

注: スナップショットをキャプチャするためにデフォルトの XML ファイルを使用しカスタマイズできます。

スナップショット定義を作成する方法の詳細については、「管理ガイド」を参照してください。

Policy Xpress の拡張機能

このリリースには、以下の拡張機能が Policy Xpress に含まれています。

- 管理対象オブジェクト用の属性プラグイン

以下の管理対象オブジェクト属性プラグインが Policy Xpress に追加されました。

- [オブジェクト属性] -- 管理対象オブジェクト属性の値を抽出できます。
- [オブジェクト属性値の変更があります] / [特定オブジェクトの属性] -- [ユーザ属性値の変更があります] および [特定ユーザの属性] と同じですが、任意のタイプの管理対象オブジェクトで動作します。
- [オブジェクト値の設定] -- 管理対象オブジェクトの属性を変更できます。

- Trim 関数

Trim 関数によって、データ要素や文字列から先頭や後続の不要スペースが削除されます。

- より多くのアクションルールのサポート

以前は、60～70個を超えるアクションルールをポリシーに追加しようとすると、Policy Xpress では、ポリシーが追加されませんでした。この場合、エラーや例外はログにレポートされませんでした。Policy Xpress ポリシーでは最大 500 個のアクションルールをサポートできます。

- Policy Xpress の Wiki

Policy Xpress のドキュメントは更新されており、CA Security Global User Community の [Wiki](#) に存在します。

安全な管理コンソール

管理コンソールにより、管理者は CA Identity Manager のディレクトリや環境を作成し管理できます。

CA Identity Manager インストールには、管理コンソールを安全にするためのオプション（デフォルトでは選択されています）が含まれます。インストール中に、事前定義済みディレクトリの管理コンソールにアクセスできるアカウントを作成します。

インストール後、管理コンソールへのアクセスを必要とする管理者を別に追加できます。

注: 詳細については、「設定ガイド」を参照してください。

基本的なアクセス要求

CA Identity Manager ユーザは、そのジョブ機能を実行するために必要なサービスへのアクセスをリクエストできます。

サービスにより、ユーザが指定ビジネス ロールに必要なすべての権限（タスク、ロール、グループ、および属性）をまとめます。ユーザは、CA Identity Manager ユーザ コンソールの [アクセス リクエスト] タスクからサービスにアクセスできます。 [アクセス リクエスト] タスクでは、ユーザまたは管理者がサービスのリクエスト、割り当て、取り消し、更新を実行できます。

サービスを使用すると、管理者はユーザ権限を 1 つのパッケージに統合することができ、それはセットとして管理されます。たとえば新しい販売担当者は全員、定義済みのタスク セットおよび特定のエンドポイントシステム上のアカウントを必要とします。また、ユーザ アカウント プロファイルに特定の情報を追加することも必要です。管理者は、新しい販売担当者のためのすべての必要なタスク、ロール、グループ、およびプロファイル属性情報を含む「Sales Administration」という名前のサービスを作成します。管理者がユーザに「Sales Administration」サービスを割り当てると、ユーザは、このサービスによって定義されたロール、タスク、グループ、およびアカウント属性のセットを受け取ります。

また、ユーザ自身がサービスへのアクセスをリクエストすることもできます。ユーザ コンソールには、各ユーザがリクエスト可能なサービスのリストがあります。このリストは、サービスの作成時などに管理者によって「自己登録」としてマークされ、適切な権限が付与されたサービスが自動入力されています。ユーザは、サービスのリストから必要なサービスへのアクセス権をリクエストすることができます。ユーザがサービスへのアクセス権をリクエストすると、リクエストは自動的に履行され、関連する権限は、すぐにユーザに割り当てられます。適切な権限を持つ管理者は、サービス履行の設定を行って、ワークフロー承認の要求や電子メール通知の生成を指定することができます。

注: この初期リリースは、基本アクセス リクエスト機能をサポートします。アクセス リクエスト機能によって、エンドユーザは権限（CA Identity Manager によって管理および管理解除される）のリクエスト、承認フローの定義、履行フローの使用が可能になります。

この初期リリースは、以下のような高度なアクセス リクエスト機能はサポートしません。

- アクセス リクエスト サービス オブジェクトのバルク定義
- CA Identity Governance（旧 CA GovernanceMinder）との統合
- 詳細なフィルタリングおよび検索

この初期リリースは以下の機能をサポートしません。

- サービス オブジェクトのバルク定義
- 詳細なフィルタリング
- 検索
- 他のフルフィルメント メカニズムとの統合

サービスの詳細については、「[管理ガイド](#)」をご覧ください。

Config Xpress の新しいドキュメント

Config Xpress は CA Identity Manager に含まれているツールです。このツールを使用して、ユーザの CA Identity Manager 環境の設定を分析し、処理することができます。

Config Xpress では、以下のタスクを実行できます。

- 環境間でコンポーネントを移動します。
他の必要なコンポーネントをツールにより自動検出して、移動するように促します。これによって多くの作業を省力化できます。
- PDF ファイルのシステム コンポーネントのレポートを発行するタスク。
- 特定のコンポーネントの XML 設定を発行するタスク。

設定をインポートする方法の詳細については、「[設定ガイド](#)」の「[設定の管理](#)」を参照してください。

SiteMinder Advanced Password Services のネイティブ CA Identity Manager 置換

基本的なパスワードポリシーに加えて、CA Identity Manager では SiteMinder から分離されている以下の追加パスワード設定が用意されています。

- パスワードの有効期限
 - [ログインの失敗または成功の追跡] - 有効にされていると、成功したログイン試行や失敗したログイン試行の追跡情報はユーザストアで関連ユーザのパスワードデータ属性に書き込まれます。
 - [ログイン追跡失敗時の認証] - 無効な場合、CA Identity Manager が追跡情報をユーザストアに書き込むことができないと、ユーザはログインできません。
 - [変更されない場合パスワードは失効] - 失効動作を設定します。パスワードが指定日数後に変更されていないと、ユーザは無効になるかパスワードの変更を強制されます。また、失効警告を指定日数の期間送信できます。
 - [パスワードの未使用] - アクティブでないユーザの動作を設定します。ユーザが成功ログインを指定日数後に試行していないと、ユーザは無効になるかパスワードの変更を強制されます。
 - [不正なパスワード] - ユーザが無効にされる前に可能なログイン試行失敗の回数を設定します。
 - [複数の正規表現] - パスワードが一致する必要があるか一致してはならない正規表現を指定します。CA Identity Manager パスワードポリシーは、各タイプの単一の表現をサポートしています。
- パスワードの制限
 - 再使用までの最短日数
 - 再使用までの最少パスワード世代数
 - 前のパスワードとの差異の割合 (%)
 - [差異をチェックする場合に順番を無視] - パーcentage差異を計算するとき文字の位置を無視します。

注: このリリースでは、CA Identity Manager r12.6 パスワードサービスのみが含まれる展開に対して CA SiteMinder パスワードサービス (パスワード履歴) を使用する CA Identity Manager 展開から履歴パスワードデータがサポートされません。

データを暗号化するためのダイナミック キー

環境で、データを暗号化したり復号化するダイナミック キーを作成できます。あるユーザがキーへの不正アクセスを取得したことが疑われる場合、キーストア用のパスワードを変更することができます。キーストアは、秘密鍵を格納するデータベースです。このパスワードを変更すると、CA Identity Manager はキーの値を再度暗号化します。

詳細については、「[管理ガイド](#)」の「[秘密鍵の管理](#)」を参照してください。

Active Directory Server の同期

Active Directory Server (ADS) のユーザがクラウドベースエンドポイント情報でローカル識別情報を同期するように CA IAM CS を設定できます。たとえば、クラウドベース Salesforce インストールで同期するように ADS をセットアップできます。その後、同期されたローカルユーザグループへの追加や変更は Salesforce 環境に継承されます。

この機能では CA IAM CS (サポートされたエンドポイント) および適切なコネクタを必要とします。

Active Directory 同期機能については以下の点に注意してください。

- この機能は Active Directory のみをサポートします。他の LDAP ディレクトリはこのリリースでこの機能の使用に対してサポートされていません。
- この機能では、既存のコネクタがあるクラウドベースエンドポイントのみがサポートされています。このリリースでは、サポートされたアプリケーションには Google Apps と Salesforce が含まれます。

この機能の詳細については、「[Connectors Guide](#)」を参照してください。

ログイン イベントおよびログアウト イベントの監査

CA Identity Manager 環境のユーザ アクセスの監視を改善するには、環境でユーザのログインおよびログアウトのイベントを監査するように **CA Identity Manager** を設定できます。デフォルトの監査詳細レポートでこれらのログ イベントを表示できます。

注: ユーザのログインとログアウトのイベントは **CA SiteMinder** ではログに記録できません。

これらの設定を監査設定ファイルで設定できます。ログインとログアウトのイベントを設定する方法の詳細については、「*Connectors Guide*」で「監査」の章を参照してください。

SHA-2 のサポート

SHA-2 SSL 証明書ハッシュは、全米標準技術研究所 (NIST) および国家安全保障局 (NSA) によって開発された暗号のアルゴリズムです。SHA2 証明書は以前のすべてアルゴリズムより安全です。CA Identity Manager で、SHA-1 ハッシュ関数で署名される証明書の代わりに SHA-2 署名付き SSL 証明書を設定できます。

第 2 章: インストールに関する考慮事項

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[Web Services SOAP および REST に対する Policy Xpress サポートの有効化](#) (P. 40)

[サポートされるプラットフォームおよびバージョン](#) (P. 40)

[非推奨コンポーネントと削除コンポーネント](#) (P. 40)

[追加の CA 製品による UNIX リモート エージェントの同時インストール](#) (P. 41)

[パスワードが暗号化されない](#) (P. 41)

[ユーザストアとオブジェクトストアとしての Oracle 11g R2 RAC](#) (P. 42)

[ユーザストアおよびオブジェクトストアとしての Oracle 12c RDB](#) (P. 42)

[ユーザストアとしての AD LDS](#) (P. 42)

[英語以外のシステムで ASCII 以外の文字を使用するとインストールに失敗する](#) (P. 42)

[Windows 2008 SP2 でファイアウォールを回避する方法](#) (P. 43)

[管理者のアクション用 JSP ページの展開](#) (P. 43)

[Linux : プロビジョニングディレクトリのインストール](#) (P. 44)

[Linux インストール用の JDK 要件](#) (P. 44)

[Linux 64 ビット : SiteMinder 接続エラー](#) (P. 45)

[WebSphere と AIX 上におけるパフォーマンス改善](#) (P. 46)

[WebSphere 7/Oracle エラーの無視](#) (P. 46)

Web Services SOAP および REST に対する Policy Xpress サポートの有効化

Policy Xpress の機能が拡張され、Policy Xpress を Web サービス インターフェースを提供する外部アプリケーションと統合できるように、Web Services SOAP（基本認証メソッド）、および REST（基本認証、プロキシ認証、および OAuth 認証メソッド）をサポートするようになりました。Policy Xpress Web Services（SOAP および REST）を JBoss 5.1 コミュニティ版で使用するには、以下の jar ファイルをお使いの JBoss 5.1 コミュニティ版の "`lib`" ディレクトリに "`client`" ディレクトリからコピーしてアプリケーションサーバを再起動します。

- `jbossws-native-jaxrpc.jar`
- `jbossws-native-jaxws.jar`
- `jbossws-native-jaxws-ext.jar`
- `jbossws-native-saaj.jar`

注: EAP バージョンの場合は、これらのファイルをコピーする必要はありません。

サポートされるプラットフォームおよびバージョン

CA Identity Manager の各リリースでは、アプリケーションサーバ、ディレクトリ、データベース、およびエンドポイントの特定バージョンがサポートされています。

注: サポートされているプラットフォームとバージョンの一覧については、[CA サポート](#)の CA Identity Manager サポートマトリックスを参照してください。

非推奨コンポーネントと削除コンポーネント

特定のコンポーネントは非推奨になっています。これは、将来のリリースでサポートされない予定であることを意味します。他のコンポーネントは削除されています。これは、製品に同梱されないか、製品のテスト対象外になることを意味します。これらのコンポーネントは、[CA サポートの CA Identity Manager Deprecation Policy](#) でリスト表示されています。

追加の CA 製品による UNIX リモート エージェントの同時インストール

このリリースでは、インストールされるソフトウェアによる依存ソフトウェア コンポーネント (CA ITCM など) の追跡によって、UNIX リモート エージェント (TRU64 プラットフォームを除く) がインストールされるようになりました。

UNIX リモート エージェントをアップグレードする場合、この新しい追跡方式では依存ソフトウェア コンポーネントの参照回数が更新されません。このアップグレードの後に製品をアンインストールする場合は、以下のアンインストールファイルを使用してください。

```
<install-dir>/scripts/uninstall-force.sh
```

注: `uninstall-force.sh` は、追加の CA ソフトウェアがインストールされているホストでは使用しないでください。このスクリプトによって削除されるソフトウェア パッケージに製品が依存している場合があります。

パスワードが暗号化されない

新しいインストールでは、ユーザ パスワードはデフォルトでは暗号化されません。また、CA Identity Manager に SiteMinder が統合されていると、`AttributeLevelEncrypt` を使用してパスワードの暗号化を有効にすることができません。この属性は、SiteMinder がインストールされていない場合にのみ機能します。

この問題は今後のリリースで修正される予定です。

ユーザストアとオブジェクトストアとしての Oracle 11g R2 RAC

ユーザストアとランタイムストアとして Oracle 11g R2 RAC を使用するとき、Oracle データベース クラスタのクラスタ機能を使用するには以下の手順に従ってください。

- Oracle 11g R2 RAC で CA Identity Manager をインストールするとき、SCAN (Single Client Access Name) を使用します。
- 表領域を作成するとき、共有ディスク グループ上でデータベース表領域を作成します。

ユーザストアおよびオブジェクトストアとしての Oracle 12c RDB

Oracle 12 c RDB をユーザストアおよびランタイムストアとして使用する場合、非コンテナ DB モードのみを使用します。Oracle 12 c "コンテナ" DB (マルチテナンシー) RDBMS オプションは、企業製品に対しては除外されます。

ユーザストアとしての AD LDS

AD LDS を Windows 2008 で CA Identity Manager ユーザストアとして使用し、CA Identity Manager を SiteMinder と統合するには、SiteMinder r6.0 SP6/r6.x QMR6 が必要です。

英語以外のシステムで ASCII 以外の文字を使用するとインストールに失敗する

CA Identity Manager のインストール中に、インストーラにより一時ディレクトリにファイルが抽出されます。一部のローカライズされたシステムでは、一時ディレクトリのデフォルトパスに ASCII ではない文字が含まれます。たとえば、スペイン語 Windows システムの一時ディレクトリのデフォルトパスは以下のとおりです。

C:¥Documents and Settings¥Administrador¥Configuración local¥Temp

ASCII 以外の文字を使用すると、インストーラで空白の [Pre-Installation Summary] ページが表示され、インストールに失敗します。

回避方法

ASCII 文字のみを含むフォルダを指すように環境変数 `tmp` を変更します。

Windows 2008 SP2 でファイアウォールを回避する方法

Windows 2008 SP2 へのインストール中に、プロビジョニング サーバ、Java コネクタ サーバ、および C++ コネクタ サーバなどの CA Identity Manager コンポーネントへの通信がファイアウォールによってブロックされます。

この問題を回避するには、ポート例外を追加するか、Windows ファイアウォールを無効にして、Windows 2008 SP2 展開内の分散 CA Identity Manager コンポーネントへアクセスします。

管理者のアクション用 JSP ページの展開

CA Identity Manager Server には、以下の手順を実行するためのサンプル JSP ページが含まれています。

- アプリケーション サーバの ping
- 展開済み BLTH の表示
- オブジェクトタイプおよび管理対象オブジェクトプロバイダに関する情報の表示
- プラグイン情報の表示
- ログインレベルの変更

JSP ページは以下の場所にインストールされます。

`admin_tools\samples\admin`

このフォルダには、JSP ページを使用するための手順が記載された `readme.txt` ファイルがあります。

注: `readme.txt` ファイル内の手順に従わずにこれらの JSP ページを使用すると、404 エラーが表示されます。

Linux: プロビジョニング ディレクトリのインストール

プロビジョニング ディレクトリを Linux システムにインストールする場合、ユーザがこのシステム上で IPv4 を使用しようとしても、IPv6 のアドレスが自動的に使用されます。すべての DSA が実行されているように見えても、JXplorer 経由で DSA に接続しようとした場合、またはプロビジョニング サーバをインストールしようとした場合に、接続拒否エラーになる場合があります。

Linux 上で IPv6 を無効にする方法

1. プロビジョニング ディレクトリをインストールする前に、Red Hat ナレッジベースの記事に記載されている手順に従って、「[Linux 上で IPv6 を無効化](#)」する必要があります。
2. /etc/hosts にこのアドレスのエントリがないことを確認します。

127.0.0.1 ホスト名

Linux インストール用の JDK 要件

CA Identity Manager 12.6.5 には Oracle JDK 1.6 が必要です。

RedHat 6.x には OpenJDK 1.6 が含まれます。これにより CA Identity Manager インストーラがハングアップする場合があります。CA Identity Manager [サポートマトリックス](#)で指定されるように、必要な Sun JDK バージョンを必ず使用してください。

Linux 64 ビット: SiteMinder 接続エラー

症状:

[SiteMinder に接続] が選択されると、64 ビット版 Linux 上で CA Identity Manager インストーラによってエラーが報告されます。SiteMinder の必須エージェント設定が適切ではありません。

解決方法:

ディレクトリまたは環境を展開する *前*に、これらの手順を実行してください。

1. インストール時に指定したエージェントの名前およびパスワードを思い出します。また、[AgentName] プロパティの値を、以下から読み取ることができます。

```
¥iam_im.ear¥policyserver.rar¥META-INF¥ra.xml
```

2. SiteMinder ユーザ インターフェイスを開き、「Agent」という名前のエージェントを作成します。[4.x エージェント] チェック ボックスを選択していることを確認します。
3. アプリケーション サーバを起動し、ポリシー サーバの接続性に関する問題がないことを確認します。たとえば、例外なしで以下のような行を探します。

```
13:40:43,156 WARN [default] * Startup Step 2 : Attempting to start  
PolicyServerService
```

WebSphere と AIX 上におけるパフォーマンス改善

AIX 上の WebSphere インストールについては、最大のヒープ サイズの設定によりユーザ コンソールで高いパフォーマンスを実現できます。

次の手順に従ってください:

1. server.xml を以下の場所で見つけます。
WAS_HOME/profiles/Profile/config/cells/Cell/nodes/Node/servers/Server
2. maximumHeapSize="1000" を jvmEntries 要素に追加します。

必要に応じて大きな値を使用できます。たとえば、maximumHeapSize を 2 GB (2048 MB) に設定するには、このファイルからの以下の抜粋内の太字で表示されるように追加します。

```
<jvmEntries xmi:id="JavaVirtualMachine_1183122130078"
verboseModeClass="false"
    verboseModeGarbageCollection="false" maximumHeapSize="2048"
verboseModeJNI="false" runHProf="false" hprofArguments=""
debugMode="false"
debugArgs="-agentlib:jdwp=transport=dt_socket,server=y,suspend=
n,address=7777" genericJvmArguments="">
    <systemProperties xmi:id="Property_1"
name="com.ibm.security.jgss.debug" value="off"
required="false"/>
    <systemProperties xmi:id="Property_2"
name="com.ibm.security.krb5.Krb5Debug" value="off"
required="false"/>
</jvmEntries>
```

WebSphere 7/Oracle エラーの無視

Oracle ランタイム ストアおよび WebSphere 7 デフォルト JRE を使用して、CA Identity Manager をインストールすると、以下のエラーが CA Identity Manager ログに表示されます。

Oracle では、アプリケーション サーバによって使用される Java ランタイム環境のバージョンで JDBC ドライバのバージョン 10 を使用することはサポートされていません。

このエラーは無視できます。

第 3 章: アップグレードに関する考慮事項

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[12.6 からのアップグレード後にシステム マネージャ ロールに必要な管理ロール スコープ \(P. 48\)](#)

[サポートされているアップグレードパス \(P. 48\)](#)

[タスク永続性およびアーカイブ スキーマを更新する新しいスクリプト \(P. 49\)](#)

[SAP R3 用の新しい JCO ファイル \(P. 49\)](#)

[新しい Active Directory ロール定義ファイル \(P. 49\)](#)

[jboss.xml ファイルへの更新 \(P. 50\)](#)

[64 ビットアプリケーション サーバ \(P. 50\)](#)

[一部のクラスタ上で r12 \(CR6 以降\) のアップグレードが失敗する \(P. 51\)](#)

[r12.5 SP7 より古いシステムからのアップグレード後のワークフロー エラー \(P. 52\)](#)

[環境移行エラー \(P. 53\)](#)

[Credential Provider のアップグレードエラー \(P. 53\)](#)

[Credential Provider の内部エラー \(P. 53\)](#)

[\[検索および関連付け\] タスクで検索画面が表示されない \(P. 54\)](#)

[r12 からのプロビジョニング マネージャのアップグレード後の致命的ではないエラー \(P. 54\)](#)

[アップグレード前に、ACF2、RACF、および TSS のエンドポイントの名前変更 \(P. 55\)](#)

[SQL アップグレードスクリプトの実行 \(P. 55\)](#)

12.6 からのアップグレード後にシステム マネージャ ロールに必要な管理ロール スコープ

CA Identity Manager バージョン 12.6 以降からアップグレードする場合、システム マネージャ ロールに管理ロール スコープが付与される必要があります。

注: これが実行されないと、管理ロール検索で結果が返されない場合があります。

以下のいずれかの手順に従います。

- 管理コンソールで [システム マネージャ] をクリックしてからユーザを選択します。
- または、[管理ロールの変更] - [システム マネージャ] を使用して、管理ロール スコープをシステム マネージャ ロールに追加できます。

サポートされているアップグレード パス

以下のバージョンから CA Identity Manager 12.6.5 にアップグレードできます。

- CA Identity Manager r12
- CA Identity Manager r12.5 または 12.5 SPx
- CA Identity Manager r12.6 または 12.6 SPx

CA Identity Manager の r12 よりも前のバージョンをアップグレードする場合、まず r12、r12.5 または r12.5 SP1 ~ SP6 にアップグレードします。これらのバージョンには `imsconfig` ツールが含まれます。これは r12 よりも前のバージョンをアップグレードする際に必要です。その後で、CA Identity Manager 12.6.5 にアップグレードすることができます。

タスク永続性およびアーカイブ スキーマを更新する新しいスクリプト

このリリースには、タスク永続性およびアーカイブ スキーマを更新するための新しいスクリプトが含まれます。アップグレード後に初めて **CA Identity Manager** を起動すると、更新が自動的に実行されます。新しいスクリプトの詳細については、「インストールガイド」を参照してください。

SAP R3 用の新しい JCO ファイル

SAP R3 用に新しいコネクタを使用する予定がある場合は、JCO ファイルを更新する必要があります。詳細については、SAP R3 コネクタのエンドポイントガイドを参照してください。

新しい Active Directory ロール定義ファイル

Active Directory の新しいロール定義ファイルを、必ず各環境にインポートしてください。現在の CA Identity Manager 環境には、Active Directory のロール定義ファイルの以前のリリースが含まれている可能性があります。したがって、ファイルをインポートして、ロール定義を 1.08 にアップグレードします。ロール定義ファイルのインポートの詳細については、「アップグレードガイド」に記載された手順に従ってください。

jboss.xml ファイルへの更新

JBoss の再起動または CA Identity Manager の初期化中に、CA Identity Manager の server.log ファイルに多くのエラーメッセージがログ記録されます。これらのメッセージは JMX が管理するイベントに関連していますが、メッセージビーンを受信はまだ初期化されていません。この問題を修正するために、以下のファイルに depends 句を含めました。

```
iam_im.ear¥iam_im_identityminder_ejb.jar¥META-INF¥jboss.xml
```

depends 句はこのセクションに含まれています。

```
<message-driven>
<ejb-name>SubscriberMessageEJB</ejb-name>
<destination-jndi-name>queue/iam/im/jms/queue/com.netegrity.ims.ms
g.queue
</destination-jndi-name>
<depends>jboss.web.deployment:war=/iam/im</depends>
</message-driven>
```

jboss.xml ファイルに必ずこのセクションを含めるようにしてください。これにより、JMX がイベントキューの処理を開始する前に、受信メッセージビーンが初期化されます。

64 ビット アプリケーション サーバ

CA Identity Manager 12.6.5 は 64 ビット アプリケーション サーバをサポートしています。それは 32 ビット アプリケーション サーバより高いパフォーマンスを実現します。以下の 64 ビット アプリケーション サーババージョンがサポートされています。

- JBoss 5.0、5.1、および 6.1 Enterprise Application Platform (EAP)
- JBoss 5.1 オープン ソース
- Oracle WebLogic 11g (10.3.5)
- IBM WebSphere 7.0、8.0、8.5

アプリケーション サーバのアップグレードの詳細については、「*Upgrade Guide*」を参照してください。

一部のクラスタ上で r12 (CR6 以降) のアップグレードが失敗する

症状:

CA Identity Manager r12 CR6 以降からクラスタをアップグレードする場合、クリアされるインストールファイル内の一部のクラスタ プロパティによってアップグレードが失敗する場合があります。

解決方法:

アップグレード前に、以下のプロパティが `im-installer.properties` ファイルにロードされていることを確認します。

- **WebSphere:** `DEFAULT_WAS_CLUSTER` にクラスタ名がロードされているかどうか確認します。ロードされていない場合は、手動で追加します。
- **WebLogic:** `DEFAULT_BEA_CLUSTER` にクラスタ名がロードされているかどうか確認します。ロードされていない場合は、手動で追加します。

注: この問題は JBoss クラスタには影響しません。

デフォルトでは、インストール ファイルは以下の場所にあります。

- **Windows :** `C:\Program Files\CA\CA Identity Manager\install_config_info\im-installer.properties`
- **UNIX :** `/opt/CA/CA_Identity_Manager/install_config_info/im-installer.properties`

r12.5 SP7 より古いシステムからのアップグレード後のワークフロー エラー

症状:

WebLogic アプリケーション サーバで r12.5 SP7 より古いシステムからアップグレードする場合、以下のエラーがワークフロー起動中に表示されます。

```
WARN [ims.default] * Startup Step 25 : Attempting to start SchedulerService
ERROR [ims.bootstrap.Main] The IAM FW Startup was not successful
ERROR [ims.bootstrap.Main] org.quartz.SchedulerException: JobStore class
'org.quartz.impl.jdbcjobstore.JobStoreCMT' props could not be configured.
[See nested exception: java.lang.NoSuchMethodException: No setter for
property 'lockHandler.class']
```

解決方法:

1. WebLogic を停止します。
2. <IAM-EAR>/APP-INF/lib フォルダに移動します。
3. 以下のファイルを削除します。
 - common-pool-1.3.jar
 - annotations.jar
 - eurekifyclient.jar
 - quartz-all-1.5.2.jar
4. アプリケーション サーバを起動します。
5. ワークフロー起動エラーが表示されなくなります。

環境移行エラー

症状:

CA Identity Manager r12 CR1、CR2、または CR3 からアップグレードする場合、環境のインポート時に、以下のエラーが発生する場合があります。

属性 "accumulateroleeventsenabled" のエレメント "Provisioning" への表示は許可されていません。

解決方法:

エクスポートされた Env.zip 内の envsettings.xml ファイルを開き、accumulateroleeventsenabled を acumulateroleeventsenabled に更新します (accumulate の 2 番目の 'c' を削除)。

Credential Provider のアップグレード エラー

32 ビット Windows プラットフォーム上で CA Identity Manager r12 Credential Provider をアップグレードした後、CAIMCredProvConfig アプリケーションの [Microsoft Password Credential Provider 無効] チェック ボックスはオフになります。

回避方法

CAIMCredProvConfig アプリケーションを開き、チェック ボックスをオンにします。

Credential Provider の内部エラー

症状:

64 ビット Windows プラットフォーム上で CA Identity Manager Credential Provider をアップグレードすると、エラー メッセージ「内部エラー 2324.2」が表示されます。

解決方法:

特にアクションは必要ありません。他のエラーが発行されなかった場合、アップグレード処理は正常に完了しました。

[検索および関連付け]タスクで検索画面が表示されない

CA Identity Manager r12 からアップグレードしている場合、または、CA Identity Manager r12.5 からアップグレードし、[検索および関連付け] タスクを新規反復モデルに移行している場合、[検索および関連付け] タスクの [参照] ボタンは正常に機能しません。

回避方法

新しい [参照] ボタンをクリックすると検索画面が表示されるように、タスクの検索画面を設定します。

r12 からのプロビジョニング マネージャのアップグレード後の致命的ではないエラー

症状:

CA Identity Manager r12 CRx からプロビジョニング マネージャをアップグレードした後、インストーラに以下のメッセージが表示されます。

The installation wizard has finished upgrading CA Identity Manager but non fatal errors or warnings occurred during the upgrade. For details please see the installation log under C:\Program Files\CA\CA Identity Manager.

Warning/Errors were reported related to the following components

CA Identity Manager インストール ログには、以下のエントリが含まれています。

```
Install, com.installshield.product.actions.Files, err,
ServiceException: (error code = -30016; message = "The process cannot
access the file because it is being used by another process.")
```

解決方法:

インストーラはすでに存在しているディレクトリを作成できないため、このエラーが発生します。ただし、インストールは正常に完了し、プロビジョニング マネージャは完全に機能します。

アップグレード前に、ACF2、RACF、および TSS のエンドポイントの名前変更

エンドポイント名におけるスペースはサポートされなくなりました。以前のリリースで名前にスペースがあるエンドポイントを作成した場合、12.6 にアップグレードする前にスペースを削除してください。

SQL アップグレード スクリプトの実行

アップグレード後に初めて CA Identity Manager サーバを起動すると、スクリプトが実行されます。これにより、タスク永続性テーブルにある `runtimeStatusDetail12` の説明列のサイズが、2000 文字に更新されます。

スクリプトの実行が失敗する場合は、以下の手順を実行してください。

1. 以下のいずれかを実行します。
 - **Microsoft SQL Server** : クエリ アナライザ: ツールを開き、必要なスクリプトを選択します。
 - **Oracle** : 必要なスクリプトの SQL プロンプトを開きます。
2. 以下のいずれかのスクリプトを選択します。
 - **Microsoft SQL Server** : `C:\Program Files\CA\Identity Manager\IAM Suite\Identity Manager\tools\db\taskpersistence\sqlserver\archive_db_sqlserver_upgrade_to126sp2.sql`
 - **Windows 上の Oracle** : `C:\Program Files\CA\Identity Manager\IAM Suite\Identity Manager\tools\db\taskpersistence\oracle9i\archive_db_oracle_upgrade_to126sp2.sql`
 - **UNIX 上の Oracle** :
`/opt/CA/IdentityManager/IAM_Suite/Identity_Manager/tools/db/taskpersistence/oracle9i/archive_db_derby_upgrade_to126sp2.sql`
3. スクリプト ファイルを実行します。
4. スクリプトを実行したときに、エラーが表示されなかったことを確認します。

第 4 章: 修正された問題

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[12.6.4](#) (P. 57)

[12.6.3](#) (P. 60)

[12.6.2](#) (P. 63)

[12.6.1](#) (P. 65)

12.6.4

CA Identity Manager 12.6.4 では以下の問題が修正されました。

サポート チケット	報告された問題
20957471/07	IM 12.6 SP2 で CQ 170096 に対して修正を提供する必要がある
21517465/01	検索画面での管理ロール スコープの指定。
21536689/01	IM Directory の作成で不正なパスワードが保持される
21539813/01	[メールファイル ACL] が [マネージャ] に設定されている場合に、LND アカウント用のクォータおよびしきい値の更新に失敗する
21538682/01	"トークン化された" IME で、[日付選択カレンダー] フィールドがエラーになった場合、返されるエラーメッセージに、リソースバンドルからのペア値ではなくキー ID が表示される。
21521403/04	サービス オブジェクトを変更すると、カテゴリがサービスから変更される
21547136/01	Oracle Applications アカウントでは、開始日セットのないテンプレートを使用してアカウントが作成された場合、エンドポイントが再調査されるまで、responsibilityList アイテム上の開始日はプロビジョニング マネージャの新規アカウントに表示されない。
21558292/01	複数の 508 非準拠
20957471/09	すでにアサインされている責任で IM を使用して新規アカウントが作成された後に調査が実行されると、リバース同期承認が生成され、Oracle Apps アカウントから責任が削除される。
21551822/01	誤ったオブジェクトセレクト結果
21567422/01	IM からのインポートの後に、組織マッピングの値が GM がない

20957471/11	リバース同期変更アカウント ポリシーが、Oracle Server に対して予期したように動作しない
21576029/01	Windows NT エンドポイントの説明が IM ユーザ コンソールに表示されない
21559775/01	アクセス ロール タスクのオブジェクト セレクタによって生成される無効な XML 文字 (Unicode: 0x1f) でロールのインポートが失敗する
21593378/01	ライブ通知のマネージャ情報が正しくない
21590547/01	IM 12.6 SP2: AD - Blank UserPrincipalName 属性が空白だと、AD アカウントに対して非同期エラーが発生する
21588715/01	管理ロール検索画面で表示ルールが定義されると、検索フィルタが機能しなくなる。
21590303/01	IM r12.6 SP2 で新しいバルク ローダ クライアントを実行すると、バルク ローダは進行中としてそのタスクをすべて開き、キューにスタックされている他のリクエストをそのままにして、JVM を占有する。
21594906/01	IM 12.6 SP1 - 属性に対する監査レベル BOTH が機能しない
21574514/02	IM 12.6 SP2: イベント レベル ワークフローでトリガされた PX で、タスクが進行中のままスタックする
21606642/02	グループに 38K ユーザが含まれている場合、「グループ メンバの変更」タスクでパフォーマンスが低下する
21557047/01	Office 365 コネクタでの不正な属性マッピング?
12345678/01	IM 12.6 SP4 で新しい SM Web エージェント API が必要。
21604197/01	名前に「¥00」が含まれる Prov Role 上で Role Def Import が停止する
21604199/01	ワイルドカード「*」と組み合わせられた「¥」で、Prov Roles の検索に失敗する。
21609415/01	推奨されない (?) API が原因で、Google コネクタ エラーが発生する
21626365/01	プロビジョニング マネージャの操作の詳細の 2 ページを表示する際に、スク립ト エラーが発生する
21613942/01	アカウント コンテナ フィルタの変更
21419884/02	不適切にフィルタされたスナップショットの完了に過度の時間を要する
21592259/01	パスワードの検証で、パスワード フィルタが予期したとおりに動作しない
21640856/01	Oracle Apps アカウントに責任を追加するためにリバース同期によって生成された承認が拒否されると、その責任は、VST で無効と表示されていても、失効しない。
21633958/01	重複する Prov Role (PX)

21641737/01	Win2012 ADS 機能レベルが Win2008R2 としてレポートされる
21643258/01	CQ176812 と同じだが、こちらは「読み取り順序」に関係している
21575724/01	Admin ロールの Admin ポリシーに関するユーザ スコープ指定ルールにより、JBoss の再起動の後に表示されていないロールのメンバ/管理者が表示される
21584724/01	SAP コネクタの追加のログ記録
21500603/01	CA Identity Manager と SiteMinder の統合が失敗する
21639644/01	Oracle アカウント テンプレートのエクスポート
21657577/01	JavaScript がカスタム CXP コネクタで使用されている場合、JCS が Apache CCPF を参照しなくなり、エラーが発生する
21636774/01	FND アカウントによる職責の取得の終了日が現在の日付になる。ORA/01422: 完全取得でリクエストした以上の行が返される。ORA-06512: "APPS_APPLSYS3.FND_USER_PKG"
21641383/01	PolXpress 電子メール] が設定されている場合に、タスク「ユーザの有効化/無効化」で「進行中」のままスタックする。
21646678/01	プロパティ [タイトル] が検索画面に追加されると、Ant ユーティリティによるロールのトークン化が失敗する。
21657600/01	プロビジョニング ロールで、IM がカスタム フィールド値のインポートに失敗する
21687010/01	一部の ELM レポートを起動できない。
21668810/01	動的グループにアサインされたユーザの削除で、問題が発生する。
21699782/01	ワーク リスト アイテム - 制限。この CQ は、オプションのログオン/ようこそ ページのワーク リスト アイテムを含めるのに必要な作業をカバーします。
21650405/01	Config Xpress ツールによってポリシー ベースのワークフローがロードされない
21539813/01	不具合 PROD00176400 の解決には、ドキュメントの変更が必要。
21712883/01	IM 12.6 SP2 - IM ユーザ コンソールで、日付/時刻用の Active Directory アカウント属性がローカルのタイムゾーンで表示されない
21669984/01	IDM と SM が統合されている場合、TEWS を使用して、パブリック エイリアス上でコールされたプライベート (パブリックではない) タスクを使用できる。

21711390/01	IM 12.6 - セキュリティの脆弱性 - イメージページをリクエストする URL によって、攻撃者がコンテンツ タイプを定義できるようになり、それによりその URL を参照する認証されたユーザのブラウザでコードが実行できるようになる
21713498/01	イベントが依然として進行中と表示されているのに、タスク ステータスが [完了] と表示される
21699782/01	ユーザのワークリストでの、イニシエータおよびユーザ ID の検索の追加
21704767/01	12.6 (任意のサービスパック) で、ModifyGroupMembership.java の Java AXIS サンプルが動作しない - 12.5 で動作するために使用されているレグレッションの可能性
21651991/01	IM への IMPS Modify_Account_Password 通知を抑制する設定オプションの追加
21730035/02	IM12.6 SP2 : AD エンドポイント : エンドポイントの [設定] タブで [ユーザはパスワードのリセット後にパスワードを変更する必要があります] フラグを設定すると、プロビジョニングが更新されない
21730581/01	プロビジョニング サーバと LND エンドポイントの間の証明者タイプの不一致
21746621/01	OU で名前に「&」が含まれるアカウントを検索/関連付けできない
21764131/01	[認証情報のブロック] 用の Office365 の単一の属性が、単一値の DYN 属性ではなく eTDYN-str-multi-c/023 にマップされていて、これが原因で、WEAK SYNC アカウント テンプレートとのアカウント同期時にエラーが発生する。

12.6.3

CA Identity Manager 12.6.3 では以下の問題が修正されました。

サポート チケット	報告された問題
21088049/02	ワークフロー ジョブが「アクティブ」状態で応答しない
21227662/05	ログインしているユーザによって ACF2 エンドポイントが検索されると、プロキシ管理者ユーザを使用するために変更できない
21240169/01	CA Identity Manager 環境のエクスポート時に StringIndexOutOfBoundsException エラーが発生する

サポート チケット 報告された問題

21298884/01	ユーザへのサービスの割り当て/ユーザのサービスの削除により、ユーザストアへの書き込みが行われないか、PXがアカウントにトリガされない
21325322/03	大量の一時停止により、すべてのLNDアカウントの一時停止またはすべてのアカウントのアクセス拒否グループへの追加が失敗する（どのアカウントも一時停止されない）
21329912/02	アカウントの同期化がCA Identity Manager 12.6で機能しない
21347968/01 21358148/01	CA Identity Managerのアクセスロールのユーザへの割り当て/ユーザからの削除時にポリシーサーバがクラッシュする
21366658/01	CA SiteMinderが統合されている場合に、Bulk Loaderタスクによってユーザを作成すると、NULLポインタ例外が返される
21378657/01	「グローバルポリシーベースのイベント用ワークフローの設定」タスクを使用して定義したOOTBエスカレーションワークフローによるエスカレーションのタイミングが早すぎる
21378803/01	「前のパスワードを再度使用することはできません。」というエラーが発生し、タスクが失敗する
21385464/01	グループメンバールール、場所属性表現でアイデンティティポリシーを設定すると、NULLポインタ例外が返される
21387236/01	コピーからユーザを作成すると、組織属性がコピーされない
21389685/01	CA SiteMinderと統合されている場合に、ログイン時間が超過する
21393295/01	CA Identity Managerユーザのプロビジョニングロールのリストからプロビジョニングロールがなくなる
21395953/01	Policy Xpressが電子メールループを送信する
21417960/01 21417960/03	[プロビジョニングロールの変更]によってNULLポインタが返される
21424762/02	禁止ユーザエラーが発生する
21430655/01	グローバルポリシーベースのワークフローイベントがエスカレーション承認者に従う
21430868/02	LNDアカウントの名前を変更する場合にミドルネームのイニシャルを削除できない
21438148/03	ルートLND組織が検索されず、アカウントが取得されない

サポート チケット 報告された問題

21438256/01	サンプル JavaScript が「自己登録」タスクで動作しない
21438937/01	タスク永続性の「古い値」および監査が奇妙な特殊文字で終了する
21439600/01	パスワードの期限が切れたユーザを使用してログインすると、空白のウィンドウが表示される
21441213/01	CA Identity Manager r12.5 環境からインポートされた管理タスクが、 <code>java.lang.ClassCastException</code> エラーを返す
21447986/01	Policy Xpress ポリシーがトリガされている場合、ノルウェー語でログインすると、「 <code>java.lang.IllegalArgumentException: Unmatched braces in the pattern</code> 」というエラーが返される
21450831/01	Connector Xpress を使用して新しいテンプレートを開くと、[Operation Bindings] ダイアログ ボックスが表示されない
21468616/01	ミドルネーム イニシャル属性の長さ
21470755/01	モバイルアプリケーションで、連絡先カードのマネージャ カードが正しく機能しない
21470794/01	モバイルアプリケーションで、正しくない現在のパスワードをサブミットした場合も含め、すべてのパスワードリセットエラーが、複雑さの問題としてレポートされる
21473825/01	CA Identity Manager のモバイルアプリケーションで、モバイルアプリケーションの内部からパスワードをリセットすると、ログインに失敗する
21475033/01	CA Identity Manager のモバイルアプリケーションで、[忘れたパスワードのリセット] は 1 回しか使用できない
21478278/01	CA Identity Manager 画面に CAPTCHA フィールドは、検証段階で他のフィールドが何度か拒否されると再表示されない
21480621/01	CA Identity Manager r12.6 SP2 の JBoss EAP 6 へのインストールでは、 <code>iam_im_compile.jsp.*</code> と <code>build.xml</code> のインストールが失敗する
21481343/01	アクティブ スロットが無期限にブロックされており、使用できるアクティブ スロットがない
21486937/01	[外部コード] カテゴリおよび [Java コードの実行] タイプとしての [関数の実行] (main ではない) のための Policy Xpress のアクションルールに関して [待機] フラグがオンになっている場合、Policy Xpress によって <code>JavaActionWaitEvent</code> が生成され、ステータスが [実行中] のままになる

サポート チケット 報告された問題

21488801/01	句読記号文字を必要とするパスワードポリシーを設定すると、不正なパスワードになる
21497995/01	複数の委任ワークリストアイテムから1つのアイテムを選択する場合、バルク操作によってエラーが返される
21520525/01	Active Directory Server 2012 への手動接続を試みる場合、<ETAHOME>\bin\ADSLDAPDiag.exe の実行に失敗し、「Error 10054 reading data from server」が返される
21522674/01	スタートアップ手順 5 で接続リセットエラーが発生する
21535004/01	TEWS を使用して SAP ロールを追加できない
21537907/01	ConfigXpress が CA Identity Manager r12.6 SP2 のインストールで機能しない
21539251/01	コピーを作成するか、管理タスクの「アクセス履歴の表示」を変更すると、エラーが発生する
215544431/01	グローバルワークフローポリシーの作成に失敗する
21558358/01	エージェントレスの Exchange エージェントが CA CloudMinder/CAFT を探す
21568224/01	ConfigXpress.air が CA Identity Manager r12.6 SP2 のインストールで機能せず、エラーを返す
21572374/01	CA Identity Manager のモバイルアプリケーションで、クイック承認が機能しない
21585328/01	ConfigXpress.air の CA Identity Manager r12.6 SP2 でのインストールに失敗する

12.6.2

CA Identity Manager 12.6.2 では以下の問題が修正されました。

サポート チケット 報告された問題

21198613/01	PX によって設定されたパスワードが、グローバルユーザおよびアカウントと同期されない
21230281/01	ロジカルアトリビュートハンドラを管理コンソールにインポートできない
21263275/01	Arcot パスワードポリシーに関する問題

サポート チケット 報告された問題

21269108/02	CA Identity Manager r12.6 のパスワード同期エージェントのインストールに関する問題
21264877/01	管理者 DN が外部 URL に追加される
21275958/01	SAP エンドポイントの取得時に NULL ポインタ例外が発生する
21272983/01	複数のポリシー モデル データベース (PMDDB) が定義されている CA Access Control エンドポイントの読み取り時にエラーが発生する
21173122/01	インポートされた rolesDef が表示されない
21270763/01	ウィザードを使用してプロビジョニング ディレクトリを作成する場合に、エラーが発生する
21280342/01	DoSynchUserRoles では、CA Identity Manager タスク実行 Web サービス (TEWS) の Web サービス記述言語 (WSDL) に対して、[欠落しているアカウントの追加] および [不要なアカウントの削除] チェック ボックスが有効にならない
21285651/01	「アカウントとアカウント テンプレートの同期」タスクの TEWS との互換性
21295778/01	Policy Xpress ポリシーを作成または変更しようとする時、「Error instantiating Policy Xpress plugin」エラーが発生する
21304316/01	ユーザ作成タスクまたはユーザ変更タスクによるユーザへのグループの追加時に、パフォーマンスに関する問題が発生する
21304316/02	ユーザ変更タスクで [グループの追加] ボタンを使用してグループにユーザを追加すると、パフォーマンスに関する問題が発生する
21306987/01	highavailability.bat を実行すると、NoClassDefFoundError エラーが発生する
21307126/01	RSA Secure ID 7 - OSGi (Open Service Gateway Initiative) バンドルを作成するためのスクリプトによって発生する問題により、エンドポイントを取得できない
21315277/04	移動したまたは名前を変更した Active Directory (AD) ユーザ アカウントを検索すると、C++ コネクタ サーバがクラッシュする
21319140/01	インポートされた SQL ベースの dir.xml のデータが大文字
21322022/01	一定期間にわたって CA Identity Manager のログインに時間がかかるようになる
21325322/01	アカウントを変更すると、LND で「通信障害のためにセッションが閉じられる」

サポート チケット 報告された問題

21331632/01	サービスを取り消す場合にユーザ名パラメータが含まれていないと、警告メッセージが表示される
21335464/01	複数のページにまたがる操作を表示すると、プロビジョニング マネージャ スクリプトエラーが発生する
21351855/01	プロビジョニング ロールを選択せず、システム マネージャ ロールのみを選択すると、CA Identity Manager による環境の作成が失敗する
21361599/01	「ユーザの変更」タスクを使用すると、以下のエラーが表示される タスクが失敗しました。致命的：SynchronizeAttributesWithAccountEvent の実行に失敗しました。エラー メッセージ：For input string
21383034/01	
21393461/01	[ユーザの有効化/無効化] またはその他のユーザ属性を更新すると、例外が発生する

12.6.1

CA Identity Manager 12.6.1 では以下の問題が修正されました。

サポート チケット 報告された問題

20576709/02	CA Identity Manager と SiteMinder の両方で共通の Business Objects レポート サーバの共有をサポートする必要がある
20576725/02	高可用性設定で Business Objects レポート サーバをサポートする必要がある
20583665/02	Business Objects レポート サーバ XI 3.1 SP5 をサポートする必要がある (CABI 3.3)
20774861/02	Policy Xpress にセカンダリ オブジェクト データを含めることができない
20777137/02	ポリシー ベースのワークフローが機能拡張され、プライマリ オブジェクトに必要なセカンダリ オブジェクト (ユーザ オブジェクト) を取得できるようになりました
20888199/01	TEWS 用アカウント テンプレートの DN 命名規則が明文化されていない
21073146/01	「アカウントとアカウント テンプレートの同期」が同期しない

サポート チケット 報告された問題

21086870/01	スタンドアロン JCS インストーラが FIPS キーを要求せず、暗号化に関連した問題が発生する
21108813/01	CA Identity Manager 12.6 で必要なロール定義が提供されない
21111634/01	JCS エンドポイント ログが作成されない
21131768/01	グローバル ポリシー ワークフロー属性の問題 (イベント定義にセカンダリ オブジェクトタイプがない)
21135604/01	ロジカルアトリビュートハンドラの表示タスクが NullPointerException エラーで失敗する
21136454/01	SQL インジェクションセキュリティの脆弱性は、このリリースで修正されました
21136456/01	セキュリティの脆弱性
21136499/01	セレクトボックスデータが、CA Identity Manager 12.6 でサービスに添付されているプロファイル画面で動作しない
21137701/01	Policy Xpress ポリシーが外部の Java コードをコールすると、"PxEnvironmentException" 例外を受信する
21140501-1	クラウド展開のサポート (テナント管理)
21146621/01	directory.xml 内のグローバル属性の検証
21156269/01	インストーラによって生成された DB スキーマと、ツールフォルダ内の個々のデータベース スクリプトによって生成された DB スキーマとの差異
21156269/01	手動でデータベースを作成する場合、多くのスクリプトが必要になる
21162602/01	TSS のカスタム相関が Unix 上で機能しない
21170706/01	地域がデンマークに設定されていると、[サブミット済みタスクの表示] が正しく並べ替えられない
21175201/01	Policy Xpress ポリシーを使用してプロビジョニング ロールが割り当てられている場合、インバウンド通知によって開始されたアカウント同期が機能しない
21181592/01	無効なクラスパスエラーで CA Identity Manager r12.6 のロードが失敗する
21183366/01	データ ソースと共に使用される不正なユーザ名
21187385/01	CA Identity Manager が断続的にクラッシュする

サポート チケット 報告された問題

21188814/01	CA Identity Manager ポリシーへのアクセス中、r12 SP3 CR11 ポリシー サーバがクラッシュする
21190699/01	Policy Xpress で、イベントまたはタスク ベース ポリシーのセカンダリ オブジェクト情報を取得できない。 また、タスク完了後、Policy Xpress が起動しても、元の属性値情報が返される。
21190873/01	508 コンプライアンス案件 - チェック ボックスのツールチップが無意味。
21193837/01	管理対象オブジェクトの作成と削除
21194712-1	トリガされたアクセス ロール割り当てがワークフローから拒否されると、イテレータのある Policy Xpress が中断する
21200396/01	508 コンプライアンス案件：「メイン コンテンツにスキップします」リンクの問題
21200412/01	508 コンプライアンス案件：警告およびエラー メッセージが、障害のあるユーザを支援するためのソフトウェアによって正しく読み取られない。
21213029-1	JSession キャッシュに格納されたパスワード サービス変数が（ログアウト時に）クリアされず、以降のリクエストが pws.fcc ページにリダイレクトされる

第 5 章: マニュアル

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[マニュアル選択メニュー](#) (P. 69)

[既知の問題](#) (P. 70)

[CA Identity Manager と CA Identity Governance の統合リリース ノート](#) (P. 70)

マニュアル選択メニュー

マニュアル選択メニューを使用すると、統一されたインターフェースから CA Identity Manager のすべてのドキュメントにアクセスできます。マニュアル選択メニューの内容は以下のとおりです。

- HTML 形式の全ガイドの目次の拡張リスト
- 検索結果がランク付けされ、検索語がコンテンツ内で強調表示される、全ガイドの全文検索機能
- 上位レベルのトピックへリンクするためのブレッドクラム機能
- 全ガイド内のトピックへの単一 HTML インデックス
- ガイドの印刷用 PDF 版へのリンク

マニュアル選択メニューの使用方法

1. マニュアル選択メニューを [CA のサポート サイト](#) からダウンロードします。

2. マニュアル選択メニューの zip ファイルの内容を展開します。

注: 最大限有効に活用できるように、「マニュアル選択メニュー」をリモートシステムにインストールする場合は、Web サーバからマニュアル選択メニューにアクセスできるようにしてください。

3. Bookshelf.html ファイルを開きます。

注: ローカルドライブからマニュアル選択メニューにアクセスし、Microsoft Internet Explorer を使用している場合、アクティブなコンテンツについて警告が表示されます。この問題を回避するには、マニュアル選択メニューをリモートシステムにインストールするか別のブラウザを使用します。

マニュアル選択メニューには、Internet Explorer 7 または 8 か、Mozilla Firefox 2 以降が必要です。PDF ガイドを利用するには、Adobe Reader 7 以降が必要です。Adobe Reader は、www.adobe.com からダウンロードできます。

既知の問題

CA Identity Manager に関連する既知の問題はすべて、[CA サポート サイト](#) で見つかります。

CA Identity Manager と CA Identity Governance の統合リリースノート

CA Identity Manager と CA Identity Governance との間における統合に関連するリリースノートはすべて、「*CA Identity Governance* リリースノート」にあります。[CA サポート](#) から CA Identity Governance マニュアル選択メニューにアクセスできます。

付録 A: アクセシビリティ機能

CA Technologies では、さまざまな利用環境のすべてのお客様が、当社の製品およびサポート ドキュメントを正しく使用して重要なビジネス業務を遂行できるよう、全力を尽くしています。このセクションでは、CA Identity Manager に含まれているアクセシビリティ機能について説明します。

第 508 条準拠

CA Identity Manager は、米国のリハビリテーション法の第 508 条および Web Content Accessibility Guidelines (WCAG2.0) に AA レベルで準拠しています。「[製品の機能拡張 \(P. 71\)](#)」のトピックに詳細が記載されています。また、CA Technology の Voluntary Product Accessibility Template (VPAT) のコピーについて、お客様の担当者までお問い合わせください。

製品の拡張機能

CA Identity Manager では、以下の領域でアクセシビリティが機能拡張されています。

- 表示
- 音
- キーボード
- マウス

注: 以下の情報は Windows ベースおよび Macintosh ベースのアプリケーションに適用されます。Java アプリケーションは多数のホストオペレーティングシステムで実行されており、これらのシステムの一部にはすでに Java アプリケーションで使用可能な支援テクノロジーがあります。これらの既存の支援テクノロジーで、JPL で記述されたプログラムへのアクセスを提供するには、ネイティブ環境における支援テクノロジー自体と、Java 仮想マシン (Java VM) 内から使用可能な Java Accessibility サポートとの間のブリッジが必要です。このブリッジは、両端が Java VM とネイティブプラットフォームであるため、ブリッジ先のプラットフォームごとに若干異なります。Sun では現在、このブリッジの JPL 側と Win32 側の両方を開発しています。

表示

コンピュータディスプレイでの可視性を向上させるために、以下のオプションを調整できます。

アイテムのフォントスタイル、色、およびサイズ

フォントの色、サイズ、その他の表示の組み合わせを選択できます。

画面解像度

ピクセル数を変更して、画面上でオブジェクトを拡大できます。

カーソルの幅と点滅の速さ

カーソルを見つけやすくしたり、点滅速度を最小化したりできます。

アイコンサイズ

アイコンを大きくして見やすくしたり、アイコンを小さくして画面のスペースを増やしたりできます。

ハイコントラストスキーム

見やすい色の組み合わせを選択できます。

音

視覚に代わるものとして音を使用します。以下のオプションを調整してコンピュータの音を聞き取りやすくするか、または聞き分けやすくします。

音量

コンピュータ サウンドの音量を上げたり下げたりできます。

音声合成

音声で読み上げたコマンド オプションやテキストを聞くことができます。

警告

目に見える警告を表示できます。

通知

アクセシビリティ機能がオンまたはオフになったときに、聴覚的または視覚的な合図を出します。

スキーム

コンピュータのサウンドと特定のシステム イベントを関連付けることができます。

キャプション

スピーチおよびサウンドのキャプションを表示できます。

注: 画面リーダーを使用している場合、より良い通訳機能を利用できるように、最新バージョンの画面リーダー ツールをインストールすることをお勧めします。

キーボード

以下のキーボード調整を行うことができます。

表示の間隔

キーを押したときにどのくらいの速度で文字を繰り返すかを設定できます。

トーン

特定のキーを押したときに音が鳴るようにできます。

固定キー機能

片手または1本の指で入力するユーザは、別のキーボードレイアウトを選択できます。

リンクのスキップ

メインコンテンツに迅速にナビゲーションするには、[メインコンテンツにスキップします] リンクを使用します。

マウス

マウスをより速く、より使いやすくするために以下のオプションを使用できます。

クリックの速度

選択するときのマウス ボタンのクリック速度を選択できます。

クリック ロック

マウス ボタンを押したままにしなくても強調表示したりドラッグしたりできます。

リーバス アクション

マウスの左ボタンで制御される機能と右ボタンで制御される機能を入れ替えることができます。

点滅の速さ

カーソルの点滅速度を選択したり、点滅させるかどうかを選択したりできます。

ポインタ オプション

以下の操作を実行できます。

- タイプ入力中にポインタの表示を非表示にする
- ポインタの場所を表示する
- 画面でポインタが移動する速度を設定する
- 可視性を高めるためにポインタのサイズおよび色を選択する
- ダイアログ ボックス内でデフォルトの場所へポインタを移動する

Mozilla Firefox の例外

キーボードのユーザおよび JAWS のユーザは、以下の理由により Internet Explorer 8 を使用することをお勧めします。

- Firefox では、ダイアログ ボックスのズームイン/ズームアウトは行われません。
- Firefox では、[メイン コンテンツにスキップします] リンクが画面リーダーによって読み取られない場合があります。

キーボード ショートカット

以下の表に、CA Identity Manager がサポートするキーボード ショートカットを示します。

キーボード	説明
Ctrl + X	切り取り
Ctrl + C	コピー
Ctrl + K	次を検索
Ctrl + F	検索置換
Ctrl + V	貼り付け
Ctrl + S	保存
Ctrl + Shift + S	すべて保存
Ctrl + D キー	行の削除
Ctrl + 右方向キー	次の語句
Ctrl + 下方向キー	下にスクロール
End キー	行の終わり

このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報であり、CA の事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複製、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。

本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし、CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負いません。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者は CA および CA Inc. です。

「制限された権利」のもとでの提供：アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2015 CA. All rights reserved. 本書に記載されたすべての商標、商号、サービス・マークおよびロゴは、それぞれの各社に帰属します。

CA Technologies 製品リファレンス

このマニュアルが参照している CA Technologies の製品は以下のとおりです。

- CA CloudMinder™ Identity Management
- CA ディレクトリ
- CA Identity Manager™
- CA Identity Governance (旧 CA GovernanceMinder)
- CA SiteMinder®
- CA User Activity Reporting
- CA AuthMinder™

CA への連絡先

テクニカルサポートの詳細については、弊社テクニカルサポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

第 6 章: 既知の問題

この章では、CA Identity Manager 12.6.5 に存在する既知の問題のリストを示します。修正された問題はすべて、個別の章に記載されています。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[一般 \(P. 79\)](#)

[レポート \(P. 105\)](#)

[全般的なプロビジョニング \(P. 107\)](#)

[CA IAM CS および Connector Xpress \(P. 109\)](#)

[エンドポイントタイプ \(P. 109\)](#)

一般

CA Identity Manager 12.6.5 に関する全般的な既知の問題は以下のとおりです。

HTML ビューとテキストビューの切り替えで生じるフォーマットの問題

問題の状況:

電子メールを HTML エディタで作成または変更する場合、HTML ビューとテキストビューで切り替えると、表の色が変わったり表が移動されるなどのフォーマット問題が発生する可能性があります。これらの問題は、Windows 7 で実行されている Internet Explorer 9 で発生していました。

解決方法:

ほかのサポートされているブラウザを使用します。サポートされているブラウザの詳細については、CA Identity Manager r12.6 SP4 プラットフォームのサポートマトリックスを参照してください。

ある環境から別の環境へオブジェクトを移行する際に、Configuration Xpress に制限事項があります。

問題の状況

ワークフロー マッピングなどの一部のオブジェクトは、Config Xpress 使用して別の環境にプロモートできません。

解決方法

1. ユーザ コンソールにログインし、[システム]-[グローバル ポリシーベースのイベント用ワークフローの設定] を参照します。

注: また、[管理コンソール] - [詳細設定] - [ワークフロー] に移動することもできます。

2. イベントを非テンプレートワークフローにマップします。

注: このイベントは OOTB マッピング リストからマップされるべきではありません。

たとえば、AssignAccessRoleEvent を追加し、ModifyAccessRoleMembershipApproveProcess へマップします。

3. Environmentsetting.xml を [管理コンソール] の [詳細設定] からエクスポートします。
4. 新たに追加されたマッピングを手順 2 から削除します。
5. 手順 3 の Environmentsetting.xml ファイルをインポートします。

手順 2 で作成されたマッピングは、インポートの後に存在する必要があります。

デフォルトの[質問と回答の設定]設定で[パスワードのリセット動作]としての[QnA]が失敗する

IdentityMinder タスクの環境管理者が、[質問と回答の設定] 設定を使用して、[パスワードのリセット動作] としての [QnA] に失敗する。

問題の状況

デフォルトの [質問と回答の設定] 設定で [パスワードのリセット動作] として [QnA] を選択すると、パスワードのリセットが失敗し、以下のエラーメッセージが表示されます。

```
"ERROR [im.webservices.QuestionAndAnswerResource] (http-/0.0.0.0:8443-1)
Failed to process get user credential questions.
Message:java.lang.NullPointerException in the server log file"
```

解決方法:

パスワードのリセット動作として QnA を使用してパスワードのリセット作業を行うには、以下の手順に従います。

次の手順に従ってください:

1. SuperAdmin として Identity Minder へログインします。
2. [タスク] - [環境管理者] に移動してから、[質問と回答の設定] を選択します。
3. [サブミット] ボタンをクリックします。

注: [有効化] オプションおよび [認証用の質問数] のデフォルト値が適用されるのは、この手順の実行後です。

IdentityMinder を r12.6 SP2、SP3 から SP4 へアップグレード後にパスワードのリセットに失敗する

問題の状況:

CA IdentityMinder r12.6 SP2 または SP3 のいずれかから 12.6 SP4 へのアップグレード後に、モバイル設定で [パスワードリセット動作] オプションが設定されていないため、パスワードのリセットに失敗します。

解決方法:

[パスワードリセット動作] オプションを手動で選択するには、以下の手順に従います。

1. SuperAdmin として Identity Minder へログインします。
2. [タスク] - [システム] - [モバイル設定] に移動し、[モバイル設定の変更] をクリックします。
3. モバイルの設定を選択し、[機能] タブに移動します。
4. 使用可能な [パスワードリセット動作] オプションのいずれかを手動で選択します。
5. タスクをサブミットします。

多数のサービスをエクスポートする場合のエラー

問題の状況:

CA Identity Manager から多数のサービスをエクスポートすると、Axis2 によって、JVM コンパイルルールに違反する大きなスタブクラスが生成されます。その結果、以下のエラーが返されます。

```
error: code too large for try statement
```

解決方法:

このコンパイルエラーが表示される場合は、問題を解決するために、以下の手順を実行します。

1. 以下のサンプルディレクトリから、生成されたスタブクラスファイルを開きます。

```
<samples_dir>%wSDL2java%src%tew6%wSDL
```

Axis2 は、以下の形式でスタブクラスを生成します。

```
<Service_name>Stub.java
```

注: WSDL からサービス名を取得してください。

2. スタブクラスファイルで、`fromOM` メソッドと `populateFaults` メソッドを分割します。以下のスクリプトは、スタブクラスファイルの `fromOM` メソッドの例です。

```
public org.apache.xmlbeans.XmlObject fromOM (
    org.apache.axiom.om.OMElement param,
    java.lang.Class type,
    java.util.Map extraNamespaces) throws
    org.apache.axis2.AxisFault {
    try {
        .....
        .....
        .....
    }catch (java.lang.Exception e) {
        throw org.apache.axis2.AxisFault.makeFault(e);
    }
    return null;
}
```

3. このメソッドスクリプトを二等分し、後半部分に名前 (`fromOMExtended` など) を付けます。
4. `fromOM` メソッドから新しく作成されたメソッドをコールします。以下のスクリプトは、変更された `fromOM` メソッドの例です。

```
public org.apache.xmlbeans.XmlObject fromOM (
    org.apache.axiom.om.OMElement param,
    java.lang.Class type,
```

```
java.util.Map extraNamespaces) throws
org.apache.axis2.AxisFault {
try {
.....
.....
.....
}catch (java.lang.Exception e) {
throw org.apache.axis2.AxisFault.makeFault(e);
}
//invoking the new method
return this. fromOMExtended(param, type, extraNamespaces);
}
```

5. populateFaults メソッドについて、手順 3 ~ 4 を繰り返します。
6. 変更を保存し、サンプルディレクトリの場所から以下のコマンドを実行して、変更をコンパイルします。
sample_dir_location> ant -Dnowslgen=true
このコンパイルではエラーが返されません。

クリア テキストで格納されるパスワード

問題の状況:

セキュリティ保護された管理コンソールブートストラップユーザのパスワードが、クリア テキストで格納されます。

解決方法:

インストールパッケージにバンドルされているパスワードツールを使用し、-JSAFE オプションを指定してパスワードを暗号化します。詳細については、「設定ガイド」の「パスワードツール」を参照してください。

ApproversList の多すぎる承認者

問題の状況:

ApproversList に含まれる承認者が多すぎると、以下のエラーが返されます。

```
ORA-12899: Value too large for column error
```

タスクは失敗し、ワークフローは続行されません。

解決方法:

レポートデータベース（オブジェクトストア）が格納されている Oracle データベースで、以下の SQL コマンドを実行します。

```
ALTER TABLE WP_ACT_DATA  MODIFY (VAR_VALUE NVARCHAR2(2000));  
ALTER TABLE WP_ACTI_DATA  MODIFY (VAR_VALUE NVARCHAR2(2000));  
ALTER TABLE WP_PROC_DATA  MODIFY (VAR_VALUE NVARCHAR2(2000));  
ALTER TABLE WP_PROCI_DATA  MODIFY (VAR_VALUE NVARCHAR2(2000));
```

Windows 2012 および Windows 8 のプラットフォームの Credential Provider から[パスワードを忘れた場合]および[アカウントのロック解除]ページに接続できない

Microsoft のインターフェースが変更されたため、Windows 2012 および Windows 8 製品シリーズでは、Credential Provider を使用できません。

pws.fcc がいないためにパスワードのリセット確認後に 404 エラーが表示される

問題の状況:

CPSCChangeMyPassword と呼ばれるパブリック IM タスクを使用する場合、ユーザは、古いパスワードと新しいパスワードを入力し、確認のためにもう一度新しいパスワードを入力します。 [サブミット] をクリックし、確認のために [OK] をクリックすると、その後の IM 確認ページに「404 File Cannot Be Found」と表示されます。

解決方法:

SiteMinder 12.5 の IIS Web エージェントには、IIS 仮想ディレクトリ形式の PWS.fcc ファイルが含まれていません。以前のバージョンの CA Identity Manager から PWS.fcc ファイルをコピーしてください。

サービス オブジェクト用のカスタム電子メール テンプレートの追加

サービス オブジェクトでは、サービスの通知と有効期限を電子メールで受け取るために、カスタム電子メール テンプレートを作成する必要があります。

次の手順に従ってください:

1. 以下のパスに移動します。
`%JBOSS_HOME%\server\default\deploy\iam_im.ear\custom\emailTemplates\default.`
2. 以下のフォルダに、「AddServiceToUserEvent.tmp」 という名前のカスタム電子メール テンプレートを作成します。
`iam_im.ear\custom\emailTemplates\default\service_status_folder`
3. サービスが完了しているか保留中の場合に、その状態に応じて 38 行目のステータスを変更します。
4. 生成される電子メールで、通知と有効期限が更新されているかどうかを確認します。

インストールパスまたはデータベースの詳細を UTF-8 文字により英語以外の言語で指定して CA Identity Manager をインストールするとエラーになる

問題の状況:

インストールパスやデータベースの詳細（データベース名、データベースユーザ名、データベースパスワードなど）を UTF-8 文字により英語以外の言語で指定して CA Identity Manager 12.6 SP3 のインストールを試みると、以下のエラーがインストールログに示され、インストールが失敗します。

```
C:\Users\Administrator\AppData\Local\Temp\1\598343.tmp\install\Fragments\dataSource.xml:329: Invalid byte 2 of 4-byte UTF-8 sequence.
```

解決方法:

インストールパスやデータベースの詳細（データベース名、データベースユーザ名、データベースパスワードなど）に UTF-8 以外の文字（英語のテキスト）を使用し、サポートされている英語以外の言語（フランス語、イタリア語、ドイツ語、スペイン語、日本語、ポルトガル語（ブラジル）、中国語（簡体字）、韓国語、フィンランド語、ノルウェー語、スウェーデン語、デンマーク語、およびポーランド語）でインストールを続行してください。

CA IdentityMinder サーバのアップグレード後の接続エラー

症状:

既存のインストールのアップグレードの後に CA Identity Manager から CA Identity Governance にアクセスする際の接続エラー

解決方法:

CA Identity Manager サーバアップグレードの後、追加の設定が必要です。

次の手順に従ってください:

1. CA Identity Manager ユーザ コンソールで、[システム] - [Web サービス] - [Web サービス設定の削除] - [検索] に移動します。
2. IMRCM 設定を削除します。
3. CA Identity Governance の Web ポータルにログインします。
4. [管理] - [ユニバース] に移動し、CA Identity Manager と統合するように設定されたユニバースを選択します。
5. [接続] タブに移動し、CA Identity Manager コネクタを選択します。

[テスト] をクリックし、正常に接続されていることを確認します。

OOTB スナップショット DDL スクリプトの実行時に警告メッセージが表示される

症状:

以下の SQL スクリプトを Microsoft SQL データベースで実行すると、無効なインデックスが生成されます。

IdentityManager/IAM_Suite/IdentityManager/tools/imrexporth/db/SqlServer/ims_mssql_report.sql

このスクリプトにより、以下の警告メッセージが返されます。

```
Warning! The maximum key length is 900 bytes. The index 'imruser6_index_3' has maximum length of 1260 bytes. For some combination of large values, the insert/update operation will fail.
```

解決方法:

次の手順に従ってください:

1. 以下のコードを使用して、ストアドプロシージャを作成します。

```
CREATE PROCEDURE sp_imruser6_index_3_exists
AS
BEGIN
DECLARE @MAX_LEN integer
DECLARE @sql_cmd nvarchar(255)
DECLARE @stmt nvarchar(255)
SET @MAX_LEN = (SELECT SUM(max_length)AS TotalIndexKeySize
FROM sys.columns WHERE name IN (N'imr_userdn', N'imr_reportid')
AND object_id = OBJECT_ID(N'imruser6'))
IF EXISTS (SELECT name FROM sysindexes WHERE name =
'imruser6_index_3') DROP INDEX imruser6_index_3 on imruser6
IF (@MAX_LEN > 900)
CREATE INDEX imruser6_index_3 ON imruser6 (imr_reportid)
INCLUDE(imr_userdn)
ELSE
CREATE INDEX imruser6_index_3 ON imruser6 (imr_reportid)
INCLUDE(imr_userdn)
END
GO
```

ストアドプロシージャが作成されます。

2. 以下のコマンドを使用して、ストアドプロシージャを実行します。

```
EXEC sp_imruser6_index_3_exists
```

ストアドプロシージャが正常に実行されると、imruser6_index_3 の下の imr_userdn 列が、含まれた列になります。

モバイル アプリケーション用の非状況依存ヘルプ

症状:

モバイルアプリケーションタスクの実行中にヘルプアイコンをクリックすると、無関係なヘルプが表示されます。

解決方法:

目次を利用するか、ヘルプを検索して、モバイルアプリケーションのヘルプを参照してください。

管理コンソールからのプロビジョニング ディレクトリの作成が失敗する

管理コンソールからのプロビジョニングディレクトリを作成する際、プロビジョニングサーバのドメイン名フィールドに、ドメイン名として外国語の文字を使用することはできません。以下のエラーメッセージが表示されることがあります。

```
“could not connect to the LDAP server machinename:20389 with userDN  
etGlobalUserName=admin,eTGlobalUserContainerName:GlobalUsers,eTNamesp  
acename=CommonObjects,dc=foreignChars, dc=eta and specified password.”
```

ユーザ パスワード用の AttributeLevelEncryption

ディレクトリ設定ファイル (directory.xml) に AttributeLevelEncryption データ分類を指定すると、CA Identity Manager はユーザストア内の属性値を暗号化します。ユーザコンソールでは、この値はクリアテキストで表示されます。

以下の属性の記述は、AttributeLevelEncryption のデータ分類を示しています。

```
<ImsManagedObjectAttr physicalname="title" description="Title"
displayname="Title" valuetype="String" maxlength="0"
searchable="false">
<DataClassification name="AttributeLevelEncrypt"/>
</ImsManagedObjectAttr>
```

以下の設定環境で、パスワードの属性レベルの暗号化を有効にすると、ユーザはログインできなくなります。

- CA Identity Manager が CA SiteMinder と統合されており、かつ
- ユーザストアがリレーショナルデータベースである

このリリースでは、以下のディレクトリ設定 (directory.xml) ファイルで、AttributeLevelEncryption データ分類がパスワード属性から削除されています。

- DirectoryTemplates/RelationalDatabase.xml
- fwSampleRDB.xml
- Samples/NeteAutoRDB/NoOrganization.xml
- Samples/NeteAutoRDB/Organization.xml

これらのファイルは、*admin_tools* ディレクトリにあります。

注: 大文字と小文字が区別される属性の管理の詳細については、「[設定ガイド](#)」を参照してください。

TEWS 使用時における LDAP DN の指定

症状:

TEWS を使用して「CreateOracleServerAccountTemplate」タスクを呼び出すと、以下のエラーメッセージが出力される場合があります。

エラー メッセージ: `<code>500</code>`

`<description>Failed to execute CreateOracleServerAccountTemplate. ERROR`

`MESSAGE: com.ca.iam.model.IAMParseException: Not a valid IAM handle:`

`'UHGUSERS' ProcessStep::Unknown TabName: null ERRORLEVEL::Fatal</description>`

問題は、DN TEWS で期待しているものはプロビジョニング ディレクトリにあるものではないということです。

この例は動作しません。

`eTORADirectoryName=WSDLOracle4,eTNamespaceName=Oracle Server,dc=im,dc=eta`

この例は動作した DN です。

`EndPoint=WSDLOracle4,Namespace=Oracle Server,Domain=im,Server=Server`

解決方法:

マッピングを探すには、アプリケーション サーバのログ レベルが詳細レベルに設定されていることを確認してください。データ/パスを必要とする Identity Manager タスクを実行します。パスはログ ファイルにあります。「<」と「insert into IM_」を検索すると、タスクによって渡されている属性値とパスを探す際に便利です。

64 ビット Linux システムで setpasswd が失敗する

症状:

Linux 64 ビットおよび Solaris システムで、setpasswd は以下のエラーで失敗します。

```
"/opt/CA/SharedComponents/csutils/bin/expect: error while loading shared libraries:  
libtcl8.4.so: cannot open shared object file: No such file or directory"
```

解決方法:

LD_LIBRARY_PATH を以下の値に設定してください。

```
/opt/CA/SharedComponents/csutils/lib/tcl8.4
```

setpasswd ではこのエラーが生成されません。

結合されたユーザストアおよびプロビジョニング ディレクトリを使用する場合のパスワードポリシー問題

症状:

CA Identity Manager では、結合されたユーザストアおよびプロビジョニング ディレクトリを使用する展開で特定のパスワードポリシーが適用されません。以下のルールおよび制限が含まれるパスワードポリシーでこの問題が発生します。

- パスワードの有効期限
 - 正常/失敗ログインの追跡
 - ログインの認証
 - 変更されない場合パスワードは失効
 - パスワードの未使用
 - 無効なパスワード
 - 複数の正規表現
- パスワードの制限
 - 再使用までの最短日数
 - 再使用までの最少パスワード世代数
 - 前のパスワードとの差異の割合 (%)
 - 差異をチェックする場合に順番を無視

%PASSWORD_DATA% がデフォルトで文字列属性の代わりにバイナリ属性にマップされるので、この問題が発生します。

解決方法:

管理コンソールで、別の属性にマップされない eTCustomField 属性に %PASSWORD_DATA% をマップしてください。たとえば eTCustomField99 になります。

マッピングを更新した後、環境を再起動します。

注: 既存の CA Identity Manager ディレクトリを更新する方法の詳細については、「[設定ガイド](#)」を参照してください。

64 ビット Active Directory パスワード同期エージェントの設定時に CA IdentityMinder サーバに接続できない

症状：

64 ビット パスワード同期エージェント (PSA) を設定するとき、利用可能な Active Directory エンドポイントのリストを取得するために、CA Identity Manager サーバに接続できません。

解決方法：

CA IAM CS が使用する暗号文のみを設定できます。CA IAM CS が使用する暗号スイートに 3 つの新しい SSL FIPS 暗号文を追加します。

次の手順に従ってください：

1. テキスト エディタで以下の設定ファイルを開きます。

```
cs_home¥jcs¥conf¥server_osgi_shared.xml
```

2. ファイルで `defaultCipherSuite` プロパティを検索します。以下にファイルにおけるコード例を示します。

```
<property
name="defaultCipherSuite"><value>FIPS_TLS_PLUS_SSL_Ciphers</value></property>
<property name="cipherSuites">
  <map>
    <entry key="FIPS_TLS_PLUS_SSL_Ciphers">
      <list>
        <value>TLS_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA</value>
        <value>TLS_DHE_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA</value>
        <value>TLS_DHE_DSS_WITH_AES_128_CBC_SHA</value>
      </list>
    </entry>
  </map>
</property>
```

この例では、`FIPS_TLS_PLUS_SSL_Ciphers` は、`cipherSuites` プロパティ下の暗号文のリストに対応するデフォルトスイートです。

3. 以下のエントリをファイルに追加します。

```
<value>SSL_RSA_WITH_3DES_EDE_CBC_SHA</value>
<value>SSL_DHE_RSA_WITH_3DES_EDE_CBC_SHA</value>
<value>SSL_DHE_DSS_WITH_3DES_EDE_CBC_SHA</value>
```

4. [保存] をクリックします。
5. CA IAM CS サービスを再起動します。

64 ビット Active Directory の PSA は、エラーなしで接続します。

EnableUserEventRoles のワークフロー参加者リゾルバが失敗する

症状:

このタスクのワークフロー設定を変更しようとする、以下のメッセージが表示されることがあります。

{0} の [リゾルバの説明] セクションの複数の選択タスクに対して、[このタスクのプライマリ オブジェクト] を設定できません。

解決方法:

ワークフロー ページに移動し、承認者を [このイベントに関連付けられるオブジェクト] に変更します。

[サブミット済みタスクの表示]内の重複した名前

症状:

負荷の高い高可用性環境では、同じグローバル ユーザに対する並行した変更リクエストが処理される際に、CA Identity Manager サーバからプロビジョニング サーバに同時リクエストが送信され、プロビジョニング サーバ内で競合状態が発生する場合があります。

解決方法:

以下のプロビジョニング マネージャ設定を [いいえ] に変更し、プロビジョニング サーバを再起動します。

Identity Manager Server/Allow Concurrent Modification on Same Global User

注: グローバル ユーザにアクセスしているプログラム終了がある場合は、このパラメータを [はい] のままにしてください。

新規環境作成時の Not Found エラー

CA Identity Manager を CA SiteMinder 6.0.5 CR 31 以降と統合する場合、ユーザが新しい環境の URL の表示を試行すると、"Error 404 - Not found" メッセージが表示される場合があります。

この問題は、ポリシー サーバのキャッシュの問題に起因します。

回避方法

このエラーを解決するには、以下の手順に従います。

Windows の場合

1. SiteMinder のレジストリへキーワードを以下のように追加します。
 - a. Navigate to
`¥¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Netegrity¥Siteminder¥CurrentVersion¥ObjectStore`
 - b. "ServerCmdMsec" キーを以下の設定で追加します。
 - タイプ : DWORD
 - 値 : 1
 - c. ポリシー サーバを再起動します。
2. アプリケーション サーバを再起動します。
3. ブラウザ インスタンスをすべて閉じます。次に、新規ブラウザ インスタンスを使用して、環境 URL にアクセスします。

Solaris の場合:

1. <CA_HOME folder>/netegrity/siteminder/registry/sm.registry ファイルに、以下の行を追加します。
`ServerCmdMsec= 0x1 REG_DWORD`
2. ポリシー サーバを再起動します。
3. アプリケーション サーバを再起動します。
4. ブラウザ インスタンスをすべて閉じます。次に、新規ブラウザ インスタンスを使用して、環境 URL にアクセスします。

CA Identity Manager での単一値コンパウンド属性の変更

動的エンドポイントに関して、CA Identity Manager で単一値コンパウンド属性を変更する場合は、1つの値のみを指定します。複数の値を指定すると、既存の値がクリアされ、属性に値が与えられません。この問題は、プロビジョニング マネージャでは発生しません。

関係属性レベルにおける Bulk Loader の制限

Bulk Loader では、関係属性レベルでユーザ オブジェクト上のタスク操作を更新できません。

- Bulk Loader によって更新されない関係属性は、Users Access ロール、Users 管理ロール、Users プロビジョニング ロール、Users グループ メンバシップ、および Groups グループです。
- 古い属性値を Bulk Loader ファイルからの新規属性値に置換すると上書きされる関係属性は、Groups Administrators、および Custom またはデフォルトの複数值属性です。

トークン化されたテンプレートを使用してプロビジョニング対応環境を作成する際のエラー

この場合、CA Identity Manager では、環境作成ウィザードで定義されたインバウンド管理者に、プロビジョニング同期マネージャ ロールを割り当てることはできません。

環境テンプレートにトークンがあるか、プロビジョニング同期マネージャ ロール名の文字列が翻訳されている場合、検索は失敗し、NoSuchObjectException がスローされます。

Oracle Applications の前提条件

システム環境変数として「NLS_LANG」を設定し、その値に「.UTF8」を指定する必要があります。

注: コネクタ サーバがインストールされているシステム上で設定し、「UTF8」の前にピリオド (.) を付加する必要があります。

Oracle 11gR2 RAC ユーザストア: 検索で大文字と小文字が区別される

症状:

Oracle 11gR2 RAC がユーザストアの場合、ユーザ、グループ、または組織を検索したときに、オブジェクトは存在していても、結果が返されないことがあります。

解決方法:

このユーザストアでは、検索で大文字と小文字が区別されます。たとえば、ユーザがデータベース内で「Suzuki」で作成されている場合、「suzuki」を検索しても、結果が返されません。オブジェクトがデータベースで作成されたときに使用されたのと同じ文字を使用してください。

JBoss 上の CA Identity Manager では Oracle に再接続されない

症状:

Oracle Database データ ソースで JBoss 5.x を使用して、CA Identity Manager を r12.5 リリースからアップグレードすると、データベース サーバが再起動される場合、アプリケーションが停止します。プロパティのバックグラウンド検証で時間を分単位からミリ秒単位に置換する JBoss によって、停止が発生します。

解決方法:

この問題を解決するには、以下の手順に従います。

1. アプリケーション サーバを停止します。
2. `/jboss folder/server/default` [またはクラスタ内のサーバ名] `/deploy` にあるデータ ソース ファイルを開き、以下の行を削除します。

```
<background-validation-minutes> </background-validation-minutes>
```

3. 以下の行を追加します。

```
<background-validation-millis>120000</background-validation-millis>
```

注: 120000 は、以前にデフォルトでバックグラウンド検証用に指定された時間である 2 分に相当します。ビジネス要件に従って値を設定します。

4. アプリケーション サーバを再起動します。

注: この問題は、CA Identity Manager の新規インストールに影響しません。

Mozilla Firefox でメイン コンテンツへのスキップが失敗する

症状:

ユーザ コンソールの上部には、[メイン コンテンツにスキップします] というリンクが表示されています。このリンクをクリックすると、ページのメイン フレームがトップに移動します。Mozilla Firefox では、このリンクが機能しません。

解決方法:

この機能をサポートする場合は、Microsoft Internet Explorer 8 以降を JAWS と共に使用します。

ユーザの同時変更が失敗する

ユーザの変更タスクは、以下の状況で失敗します。

- ユーザの変更中にそのユーザを無効にしようとすると、タスクは失敗します。
- ユーザの変更中に [ユーザのプロファイル] 画面に `forcePasswordChange` 属性を追加すると、タスクは失敗します。

Policy Xpress 構文の変更

症状:

Policy Xpress 構文の変更により、エラーが発生する場合があります。ポリシーがアカウント識別子に文字列解析を使用し、フラットなエンドポイント上にユーザのアカウントが複数あると、この問題が発生します。Oracle、OS400 および Microsoft SQL などのエンドポイントは、エンドポイント名の下に、仮想コンテナとしてのアカウントを持ちます。12.6.1 より、アカウント識別子の構文は以下のようになっています。

- フラットなコネクタの場合、EndpointName:
EndpointName:AccountName
- 階層的なコネクタの場合、
EndpointName:AccountContainerPath:AccountName

解決方法:

アカウント識別子に文字列解析を使用している Policy Xpress ポリシーを見つけます。新しい構文にマッチするように、それらのポリシーを更新します。

SAP ヘルプトピックの更新

SAP r3 アカウントに関連するデフォルト タブのヘルプには **10** 進法用にこの定義が必要です。

- 10 進法の表示方法を指定します。
- 以下のオプションがあります。

1.234.567,89

1,234,567.89

1 234567,89

Oracle バグ 6376915 の修正の有効化

データベースがラージオブジェクト (LOB) の処理のためにビジー状態になる場合、データベースが自動セグメント領域管理 (ASSM) を使用するよう設定されていると、Oracle バグ 6376915 により、最高水位 (HW) エンキュー競合が発生します。

このバグのために、CA Identity Manager および CA CloudMinder を含む CA ソフトウェアで、パフォーマンスとスケーラビリティに関する問題が発生します。

この問題の修正では、必須イベントが導入されます。この新しいイベントを設定して、ASSM アーキテクチャが LOB チャンクをより効率的に割り当てるようにします。

このバグは Oracle 10.2.0.3 で発生し、Oracle 10.2.0.4 および Oracle 11.1.0.7 の両方で修正されました。ただし、この修正は、デフォルトでは有効になっていません。

以下の手順では、spfile が設定に使用されることが前提となっています。

次の手順に従ってください:

1. 以下のコマンドを入力します。

```
ALTER SYSTEM SET EVENT='44951 TRACE NAME CONTEXT FOREVER, LEVEL 1024' scope=spfile;
```

2. データベースを再起動します。
3. 修正をテストするには、以下の方法を使用します。
 - Bulk Loader を使用して、CA Identity Manager と CA CloudMinder のタスク スループットを測定します。
 - HW エンキュー競合の待機時間を測定します。

RequestUserService タスクの実行に失敗する

問題の状況:

Jboss 6.x をアプリケーションサーバとして、Objectstore として Oracle 12c を使用すると、ユーザがサービスをリクエストする際に、以下のエラーメッセージが表示される。「RequestUserService の実行に失敗します。エラーメッセージ: SmApiWrappedExceptionRA-01843: 有効な月ではありません」が UI に表示されます。

解決方法:

1. Jboss 6.x アプリケーションサーバを停止します。
2. 「**Standalone-full.xml**」 という名前のファイルが **<Jboss installed location>¥Standalone¥Configuration** にあるので、それを編集します。
3. 以下のテキストを探します。
`jndi-name="java:/iam/im/jdbc/jdbc/objectstore".`
4. 以下に表示されているように、強調表示された行を追加します。
`<datasource jta="false"
jndi-name="java:/iam/im/jdbc/jdbc/objectstore"
pool-name="iam_im-imobjectstoredb-ds" enabled="true"
use-java-context="true">
<connection-url>jdbc:sqlserver://<hostname>:1433;selectMethod=c
ursor;DatabaseName=<ora_dbname></connection-url>
<driver>sqljdbc</driver>

<new-connection-sql>alter session set
NLS_DATE_FORMAT='YYYY-MM-DD' NLS_TIMESTAMP_FORMAT='YYYY-MM-DD
HH24:MI:SS.FF3'</new-connection-sql>`
5. 同じファイルに、以下に表示されているように強調表示された行を追加し、ファイルを保存します。
`<datasource jta="false"
jndi-name="java:/iam/im/jdbc/jdbc/reportsnapshot"
pool-name="iam_im-imreportsnapshotdb-ds" enabled="true"
use-java-context="true">
<connection-url>jdbc:sqlserver://<hostname>:1433;selectMethod=c
ursor;DatabaseName=<ora_dbname></connection-url>
<driver>sqljdbc</driver>

<new-connection-sql>alter session set
NLS_DATE_FORMAT='YYYY-MM-DD' NLS_TIMESTAMP_FORMAT='YYYY-MM-DD
HH24:MI:SS.FF3'</new-connection-sql>`
6. アプリケーションサーバを起動します。

レポート

以下の問題は、CA Identity Manager 12.6.5 のレポートに関連するものです。

Audit-Assign Revoke Provisioning Roles レポート

問題の状況:

Windows AD 2012 R2 がユーザストアとして使用されている場合に、Audit-Assign Revoke Provisioning Roles レポートがデータなしに生成されます。

解決方法:

1. IdentityMinder 管理コンソールにログインします。
2. [環境] リンクをクリックし、次に、<AD Environment> をクリックします。
3. [詳細設定] - [監査] をクリックします。
4. [エクスポート] ボタンをクリックします。
5. Audit Settings XML ファイルを保存します。
6. Audit Settings XML ファイルを開き、以下の行をファイルの最後に追加します。

```
<AuditEvent name="RevokeProvisioningRoleEvent" enabled="true"
auditlevel="BOTHCHANGED">
  <AuditProfile objecttype="USER" auditlevel="BOTHCHANGED"/>
  <EventState name="COMPLETE" severity="NONE"/>
  <EventState name="INVALID" severity="CRITICAL"/>
</AuditEvent>
```
7. ファイルを保存します。
8. 手順 1、2、3 を繰り返します。
9. [インポート] ボタンをクリックし、更新された Audit Settings XML ファイルを参照して選択し、[完了] をクリックします。
10. [環境の再起動] をクリックします。
11. レポートを生成して、データがある Audit-Assign Revoke Provisioning Roles レポートを取得します。

ユーザアカウントとエンドポイントアカウントのカスタムスナップショットXMLファイルではユーザフィルタ検索で大文字と小文字が区別される

症状:

エンドポイントアカウントのカスタムスナップショットXMLファイルとユーザアカウントのユーザアカウントエクスポート要素の両方で%USER_ID%のフィルタを作成すると、ユーザが存在するにもかかわらず、レポートには結果が表示されません。

解決方法:

フィルタ検索では大文字と小文字を区別します。

Satisfy=All が XML ファイルで正しく機能しない

スナップショットパラメータXMLファイルでは、satisfy=all と satisfy=any はどちらも同じく satisfy=any (OR 演算子と同様) として機能してしまいます。

エンドポイントオブジェクトで複数のフィルタを使用する際における問題

症状:

複数のフィルタを使用して、スナップショット定義がエンドポイントオブジェクトで作成されると、エンドポイントデータはキャプチャされません。

解決方法:

複数のエンドポイントオブジェクトを選択する代わりに、[スナップショットポリシー] タブで、アスタリスク (*) を指定して、複数のエンドポイントオブジェクトを選択してください。

スナップショットではグループ オブジェクト データがキャプチャされない

症状:

「組織フィルタ」を使用して、スナップショット定義がグループ オブジェクトで作成されると、エンドポイントデータはキャプチャされません。

解決方法:

組織フィルタをドロップダウンから選択する代わりに、[スナップショットポリシー] タブで、[(すべて)] を選択してください。

全般的なプロビジョニング

以下の問題は、CA Identity Manager 12.6.5 の全般的なプロビジョニングの問題です。

プロビジョニング ロールの名前を変更することはサポートされない

作成後にプロビジョニング ロールの名前を変更することはサポートされていません。

INFO レベルよりも上位のレベルで Solaris ECS のロギングを行うとプロビジョニング サーバのパフォーマンスに影響する場合があります

INFO レベルよりも上位のレベルで ECS ロギングを有効にすると、応答を受け取る前にログが書き込まれるようになります。このため、ログが書き込まれている間、リクエストは遅延します。

回避方法

プロビジョニング サーバのパフォーマンスが低下した場合は、ECS ロギングをオフにします。

エンドポイント追加時に既存エンドポイントが存在するエラー

エンドポイントを削除してからまったく同じ名前で再度追加すると、プロビジョニングサーバからその名前のエンドポイントがすでに存在しているという内容のエラーが報告される場合があります。これは、そのエンドポイントを管理するコネクタサーバを複数設定した場合に発生する可能性があります。このエラーは、エンドポイント削除時に、すべてのコネクタサーバに削除が通知されるわけではないことが原因です。

回避方法

エンドポイントを管理するように設定されているコネクタサーバをすべて再起動します。

Microsoft SQL エンドポイントの相関が失敗する

症状:

Microsoft SQL エンドポイントの相関は以下のメッセージで失敗します。
`Object MS SQL Logins global users creation failed. 識別名からオブジェクト クラスを決定できません。`

アカウントを持ったコンテナだけでなく、すべてのコンテナが Microsoft SQL エンドポイントに選択されると、このエラーが発生します。

解決方法:

1. 検索および関連付けの定義を作成し、Microsoft SQL エンドポイントを検索します。
2. すべてのコンテナを検索しますが、エンドポイント名のみをコンテナとして選択します。
3. 検索および関連付けの属性を選択します。
4. [検索および関連付けの定義] を実行します。

グローバル ユーザ名に対する SiteMinder のログイン名の制限

ユーザが SiteMinder ポリシー サーバにログインする必要がある場合、以下の文字または文字列をグローバル ユーザ名の一部にすることはできません。

&
*
:
()

回避方法

グローバル ユーザ名でこれらの文字を使用しないようにします。

CA IAM CS および Connector Xpress

以下の問題は CA IAM コネクタ サーバ (CA IAM CS) および Connector Xpress に関連します。

注: CA Identity Manager 12.6 では、Java コネクタ サーバ (Java CS または JCS) の名前は、CA IAM コネクタ サーバ (CA IAM CS) に変更されました。

JNDI アカウント管理画面 - 複数の構造オブジェクト クラスでのアカウント作成に失敗する

複数の構造オブジェクト クラスを持つアカウントは作成できません。

エンドポイント タイプ

以下の問題は CA Identity Manager 12.6.5 のエンドポイント タイプの管理に関連するものです。

全般

以下のセクションでは、さまざまなコネクタの既知の問題について説明します。

存在しないアカウントのアカウントステータスが CA Identity Manager ユーザ コンソールに正しく表示されない

CA Identity Manager ユーザ コンソールには、ネイティブに削除されたアカウントのアカウントステータスは正しく表示されません。存在しないエンドポイントを一時停止すると、成功メッセージが表示されます。

再試行の自動ロックが設定されたエンドポイントでは、再試行制限の値を寛容な設定にする必要があります。

このセクションは、すべての TSS コネクタに適用されます。

「N」回の再試行で自動ロックを行うエンドポイントについて考えます。CA IAM CS を使用してエンドポイントへの接続に使用したアカウントは、寛容な（または制限のない）「N」を持つように設定される必要があります。これは、接続試行が CA IAM CS によってすぐに上限まで使用されてしまうためです。

「N」を超過したためにアカウントがネイティブでロックされると、ネイティブ ツールを使用してアカウントをロック解除しないと、エンドポイントを再度取得できない場合があります。この状況は、エンドポイントの実際のネイティブ「ロック」動作に依存します。

CA Identity Manager 12.5 SP6 以前からアップグレードした後のエンドポイント検索画面におけるエラー

このセクションは、すべての TSS コネクタに適用されます。

症状:

r12.5 SP6 以前から r12.5 SP7 以降にエンドポイント ロール定義ファイルをインポートすると、以下のメッセージのようなエラーが発生します。

"画面定義 "デフォルト エンドポイント タイプ プライマリ グループ エンドポイント機能検索" でエラーが発生しました。タグ

"DefaultActiveDirectoryPrimaryGroupEndpointCapabilitySearch" エラー: タイプ "UNKNOWN" は有効なオブジェクトタイプではありません。"

CA Identity Manager r12.5 SP7 では、名前が変更されたオブジェクトがあります。これらのオブジェクトはエンドポイント機能検索画面で参照されます。r12.5 SP7 以降へのアップグレード後、古いオブジェクト名を参照する画面を含むロール定義ファイルをインポートすると、エラーが発生する場合があります。

この問題は Active Directory と CA Access Control のエンドポイントで確認されています。

解決方法:

ロール定義ファイルをインポートする前に、古いオブジェクト名を参照する画面定義を削除することを検討してください。

以下に、Active Directory エンドポイントの例を示します。

CA Identity Manager r12.5 SP6 で、Active Directory エンドポイントの機能検索画面名がオブジェクト ACTIVEDIRECTORY_ADUNIXPRIMARYGROUP を参照しました。

オブジェクト名が以下の画面定義に表示されます。

```
<Screen name="Default Active Directory Primary Group Endpoint  
Capability Search"  
tag="DefaultActiveDirectoryPrimaryGroupEndpointCapabilitySearch"  
screendefinition="EndpointCapabilitySearch"  
Object="ACTIVEDIRECTORY_ADUNIXPRIMARYGROUP">
```

CA Identity Manager r12.5 SP7 では、オブジェクト名は 'ACTIVEDIRECTORY_ETADSGROUP' に変更されました。

新しいオブジェクト名は、以下の画面定義に表示されます。

```
<Screen name="Default Active Directory Group Endpoint Capability Search"
```

```
tag="DefaultActiveDirectoryGroupEndpointCapabilitySearch"
```

```
screendefinition="EndpointCapabilitySearch"
```

```
object="ACTIVEDIRECTORY_ETADSGROUP">
```

アカウント テンプレートが、ユーザ コンソールの [作成] または [メモリ] タスク上のアカウントと同期しない

症状:

ユーザ コンソールを使用した、明示的なアカウント同期はサポートされていません。

解決方法:

プロビジョニング マネージャを使用して、アカウントをアカウント テンプレートと同期します。

エンドポイントとプロビジョニング サーバ間でのインポート時にエンドポイントを直接変更するとエラーが発生する

このセクションは、すべての TSS コネクタに適用されます。

エンドポイントが直接（プロビジョニング サーバを使用せずに）変更される場合、インポートの際にエラーが返されます。このエラーは、エンドポイントのデータとプロビジョニング サーバのデータに整合性がないことが原因で発生します。以下に例を 2 つ示します。

- 誰かがネイティブ ツールを使用して、MSSQL エンドポイントからテーブルを削除し、その結果、一部のユーザが所得したリソースがもはや存在しなくなった。

この問題を解決するには、プロビジョニング サーバを使用して、エンドポイントを再調査します。

- 誰かが、エンドポイント上のいくつかのサーバロールを削除した。それらのサーバロールがまだ割り当てられているアカウントテンプレートが追加のロールを受け取ったが、それらのロールはエンドポイント上にもはや存在しない。

この失敗を解決するには、アカウントテンプレートから「削除された」サーバロールを手動で削除します。

ACF2 ACFESAGE、RACF IRRDBU00 および TSSCFILE 用コネクタのエンドポイント名の制限

症状:

dumpfile コネクタ上に "user test"、"user-test" および "_usertest" などのエンドポイント名のエンドポイントを作成しようとする、エンドポイントの作成が失敗し、「プール可能な接続ファクトリを作成できません」というメッセージが表示されます。

解決方法:

ACF2 ACFESAGE、RACF IRRDBU00 および TSSCFILE 用コネクタのエンドポイント名にスペース文字を使用することはできなくなりました。また、これらコネクタのエンドポイント名には以下の制限があります。

- 1～30 文字で指定する
- 英数字で始める
- 英数字または "_" (アンダースコア) 文字のみを含める。

このバージョンにアップグレードする前に、条件を満たさないメインフレーム dumpfile エンドポイントを削除してください。

CA Access Control

カレンダー ウィンドウ ボタンの文字が英語で表示される

CA Access Control エンドポイントでアカウント テンプレートを作成すると、カレンダー ウィンドウの [OK] と [キャンセル] ボタンが [ログイン] タブに英語で表示されます。

Access Control アカウントからのグループの削除

症状:

Access Control コネクタがプロビジョニングしたネイティブ ユーザアカウントからネイティブ グループを削除すると、ネイティブ グループは2段階プロセスで削除されます。2段階プロセスにより、既存のグループメンバシップがすべて削除されてから、必要なグループメンバシップがすべて追加されます。これにより、アカウントで正しいグループメンバシップになりますが、お客様によっては運用上の懸念が生じる場合があります。

解決方法:

2段階プロセスを使用しない場合、C++ コネクタ サーバ (CCS) 定義を作成するために Connector Xpress を使用できます。CCS 定義は、CA IAM CS によってルーティングする代わりに、プロビジョニング サーバに直接接続できます。この回避策により、ACC アカウントで1段階のグループ変更が発生します。ただし、ACC アカウント グループメンバシップを管理するためにユーザ コンソールを使用できません。ACC アカウント グループメンバシップを管理するには、プロビジョニング マネージャを使用してください。

注: C++ コネクタ サーバ定義を作成するために Connector Xpress を使用する方法の詳細については、「Connector Xpress ガイド」の「管理コネクタサーバを設定する方法」を参照してください。

CA Arcot

SiteMinder が CA Identity Manager を保護するときに ArcotID タスクを保護する

CA AuthMinder 認証方式を使用して、SiteMinder が CA Identity Manager を保護する場合、以下のタスクが CA Identity Manager で動作しません。

- マイ ArcotID の作成/リセット
- マイ ArcotID のダウンロード

これは、SiteMinder が、保護されているリソース用に 1 つの認証方式を定義するためです。保護されている CA Identity Manager タスクにはすべて同じ URL があります。それは 1 つの SiteMinder 認証方式によって保護されます。その結果、同じ認証方式が、すべての CA Identity Manager タスクに適用されます。

CA Identity Manager URL が Arcot 認証によって保護されている場合、タスクにアクセスするには、ユーザは ArcotID を渡す必要があります。上記のタスクにアクセスするユーザには ArcotID がありません。したがって、タスクにアクセスするために ID を渡すことができません。

SiteMinder が CA Identity Manager タスクを保護する場合、この問題を防ぐには、Active Directory や LDAP など、CA AuthMinder 以外の認証方式を使用してください。

注: [マイ ArcotID の作成/リセット] や [マイ ArcotID のダウンロード] は機密タスクであるので、CA Technologies では保護されたタスクとしてこれらのタスクを設定することを強くお勧めします。これらのタスクをパブリックタスクとして設定する場合、ユーザはクレデンシャルを渡さずにアクセスできます。パブリックタスクの詳細については、「ユーザコンソールデザインガイド」で「[セルフサービスタスク](#)」を参照してください。

拡張ポリシー サーバ用 CA SSO コネクタ

以下のセクションでは、拡張ポリシー サーバ用 CA SSO コネクタの既知の問題について説明します。

PLS コネクタで 2000 を超えるアカウントをアプリケーションに追加できない

2000 を超える PLS アカウントを 1 回でアプリケーションに追加できません。追加する PLS アカウントが 2000 を超える場合は、アカウントを複数回の操作に分割する必要があります。

DB2 および DB2 for z/OS

以下のセクションでは、DB2 および DB2 for z/OS の既知の問題について説明します。

データタイプ不一致により日付データタイプを保存できない

症状:

DB2 エンドポイント (IBM i 用の JDBC DB2) 上で日付タイプ属性を設定したとき、以下のエラーが表示されます。

```
Bad SQL Grammar: Data type mismatch. (YYYY-MM-DD)
```

解決方法:

プロビジョニング マネージャのエンドポイント ページ上で Connection URI を編集し、*date format=iso* を追加します。最終 URI が

「*jdbc:as400://<host>:CA Portal/<db>;prompt=false;date format=iso;*」のように表示されます。*date* と *format* との間のスペースに注意してください。

Google Apps

以下のセクションでは、Google Apps コネクタの既知の問題について説明します。

Google Apps — Google Apps アカウントを作成する際のエラーメッセージ

症状:

Google Apps アカウントの作成時に、「*CreateGoogleAppsUser* の実行に失敗しました。Google Apps アカウントは作成されましたが、いくつかの追加操作に失敗しました。」というエラーメッセージが表示されます。

アカウントは CA Identity Manager 内と Google Apps エンドポイント上に作成されますが、グローバル ユーザに関連付けられないため、CA Identity Manager ユーザ コンソールには表示されません。

解決方法:

同じニックネームとユーザ名を使用してアカウントを作成しようとすると、エラーが発生します。

この問題を解決するには、**Google Apps** エンドポイント上で検索および関連付けを実行します。

作成したアカウントが、**CA Identity Manager** でグローバルユーザに関連付けられ、表示されるようになります。

Google Apps – 同じコネクタ サーバ上の複数の Google Apps エンドポイント

Google Apps コネクタ プロキシ設定はシステム全体のプロパティです。同じ CA IAM CS 上に複数の Google Apps エンドポイントを作成する場合、同じ CA IAM CS 上のすべての Google Apps エンドポイントに、同じプロキシサーバ、ポート、ユーザ名、およびパスワードを使用します。

Google Apps -- NTLM 認証を使用する際に表示されるエラー メッセージ HTTP 403: HTTP 403: Forbidden

症状:

NTLM 認証を使用しようとする、プロキシサーバから「*HTTP 403: Forbidden*」が表示され、Google Apps ドメインが取得されません。

解決方法:

Windows コンピュータでは、CA IAM CS が Windows サービスとしてインストールされ、デフォルトでローカル システムとして実行されるため、このエラーが発生します。

CA IAM CS が Windows コンピュータ上で実行されており、NTLM が HTTP プロキシでサポートされる最も強力な認証方式である場合、Google Apps コネクタは HTTP プロキシでの NTLM 認証の使用を試行します。

HTTP プロキシサーバで NTLM 認証が使用される場合は、Windows ドメインアカウントまたは Windows ローカルアカウントで CA IAM CS が実行されるように設定します。

NTLM 認証を設定する方法

以下のいずれかの操作を行います。

- HTTP プロキシサーバで認証できる Windows アカウントを使用して CA IAM CS を実行し、エンドポイントを作成する際にプロキシ認証用のユーザ名およびパスワードを提供しない。
- HTTP プロキシサーバで認証できない Windows アカウントを使用して CA IAM CS を実行し、エンドポイントを作成する際にプロキシで認証できる HTTP ユーザ名およびパスワードを提供する。

注: HTTP プロキシ認証に Windows ドメインユーザを使用する場合は、ユーザが所属する Windows ドメインを HTTP プロキシユーザ名の前に付加します。例: DOMAIN¥ProxyUserName

Google Apps アカウントの検索が失敗する

症状:

名または姓による Google Apps アカウントの検索が失敗します。

解決方法:

ユーザの名または姓の更新を Google Apps が処理できるようになるまで最大 30 分かかる場合があります。そのため、CA Identity Manager での新しい名前の検索が失敗します。名前を変更したら、新しい名前で検索を行うまで 30 分間待機してください。

Microsoft Active Directory および Exchange

Active Directory および Exchange に関する既知の問題は、「*Endpoint Guide for Active Directory and Exchange*」に記載されています。このガイドは、[CA サポート](#)からダウンロードできます。

PeopleSoft

以下のセクションでは、PeopleSoft コネクタの既知の問題について説明します。

プロビジョニング マネージャで検索が失敗する場合があります

プロビジョニング マネージャを使用して、PeopleTools 8.49 がある PeopleSoft エンドポイントを検索すると、[代替ユーザ ID]、[上位のユーザ ID]、および [作業の再割り当て先] を割り当てるための PPS ユーザの検索で、結果が返されない場合があります。

この問題に対する回避策は 2 つあります。

- CA Identity Manager ユーザ コンソールを使用して、PeopleSoft エンドポイントを管理する（推奨）。
- 検索を実行せず、プロビジョニング マネージャのフィールドに値を入力する。この値は引き続き検証の対象となるため、入力された値が PPS ユーザでない場合は、[適用] ボタンをクリックすると割り当てが失敗します。

SAP

以下のセクションでは、SAP コネクタの既知の問題について説明します。

SAP 契約上のユーザタイプの割り当て

契約上のユーザタイプを [ライセンス データ] タブのユーザに割り当てる場合、変更はマスタ システムにのみ適用され、子システムには適用できません。

回避方法

子の契約ライセンス タイプを、ネイティブに変更できます。

SAP エンドポイントが SAPlogon.ini ファイルから事前ロードされない

プロビジョニング マネージャが Windows 2008 上で実行されている場合、SAP のエンドポイント詳細は SAPlogon.ini ファイルから事前ロードされません。

注: この問題は Windows 2008 のみで実行されるプロビジョニング マネージャ固有です。

回避方法

手動で、SAPlogon.ini ファイルの内容をプロビジョニング サーバに入力する必要があります。

SAP 契約上のユーザタイプ属性の必須フィールド

アカウントの [License Data] タブに指定できる契約上のユーザタイプは、[LIC_TYPE] フィールド以外に必須フィールドを設定することはできません。たとえば、契約上のユーザタイプを使用するのに SAP R3 システム (SYSID) の名前を指定する必要がある場合は、割り当てに失敗して SAP R3 システムの名前の値が欠けているとのエラーが表示されます。

[アカウント ライセンス データ] タブの契約上のユーザタイプ属性が一部のライセンスタイプで機能しない

ユーザタイプが利用可能リストから選択される場合、一部のユーザタイプのみが機能します。一部のライセンスタイプでは、「'BAPI' ファンクションコールエラー」というエラーになります。このエラーの原因は、一部のユーザタイプに認識されない余分なフィールドが含まれていることにあります。

Siebel

以下のセクションでは、Siebel コネクタの既知の問題について説明します。

複数のエンドポイント上でアカウントを作成する際に SBL エラーが表示される

複数のエンドポイントをリスト表示するアカウントテンプレートでは、すべてのエンドポイントに存在する Siebel グループのみをリスト表示できます。

UNIX v2

[ユーザ パスワードのリセット]タスクの動作がプラットフォームによって異なる

[ユーザ パスワードのリセット] タスクが SUSE および HPUX のエンドポイントで実行される場合、ユーザ アカウントは一時停止状態から有効になります。しかし、RHEL、Solaris、および AIX エンドポイントの場合は、ユーザ アカウントが一時停止状態のままになります。